

2020年度事業報告書

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

学校法人 大阪音楽大学

I 法人の概要

【1】 建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ之ノ学校ニヨッテ統一サレ
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

【2】 学校法人の主な沿革

1915年（大正4年）	創立者永井幸次により、大阪市南区塩町（現、中央区南船場）に大阪音楽学校を開校
1926年（大正15年）	大阪市東区味原町（現、天王寺区味原本町）に移転
1948年（昭和23年）	大阪音楽高等学校開校
1951年（昭和26年）	大阪音楽短期大学開学
1954年（昭和29年）	豊能郡庄内町野田（現、豊中市庄内幸町）の現校地に移転
1957年（昭和32年）	附属児童音楽学園開設
1958年（昭和33年）	大阪音楽大学開学 大阪音楽高等学校を附属音楽高等学校に改称
1959年（昭和34年）	大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部に改称
1966年（昭和41年）	音楽文化研究所開設（のちに音楽研究所に改組） 附属児童音楽学園を附属音楽学園に改称
1967年（昭和42年）	大学と短期大学部に各音楽専攻科設置 附属音楽幼稚園開設
1968年（昭和43年）	大学院音楽研究科開設 附属楽器博物館開設
1980年（昭和55年）	K号館竣工（音楽文化研究所、附属楽器博物館を移転）
1981年（昭和56年）	附属音楽高等学校閉校
1989年（平成元年）	ザ・カレッジ・オペラハウス開館
2000年（平成12年）	P号館（ミレニアムホール）竣工
2002年（平成14年）	音楽博物館開設（附属楽器博物館、音楽研究所などを統合して改組）
2003年（平成15年）	附属音楽院を開設（附属音楽学園を改組）
2004年（平成16年）	短期大学部を改組、新たにジャズ・ポピュラー専攻開設
2009年（平成21年）	短期大学部を改組、音楽科の下に11コースを置く
2011年（平成23年）	短大専攻科を音楽専攻の1専攻に改組

2012年（平成24年）	大学音楽学部作曲学科・声楽学科・器楽学科の3学科を廃止し、音楽学科1学科を新設、ジャズ・クラシックギター・電子オルガン専攻を開設、短期大学部音楽科にクラシックギター・ダンスパフォーマンスコースを開設
2015年（平成27年）	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学・短期大学機関別認証評価の結果、「大学評価基準・短期大学評価基準に適合している」と認定を受ける
2016年（平成28年）	大学音楽学部音楽学科にミュージッククリエイション専攻・ミュージックコミュニケーション専攻を開設 100周年記念館（新K号館）竣工
2017年（平成29年）	音楽博物館を大阪音楽大学メディアセンター楽器資料館と改称 附属音楽院さくら夙川校開設
2018年（平成30年）	大学音楽学部音楽学科クラシックギター専攻をギター・マンドリン専攻に改称 短期大学部音楽科クラシックギター・コースをギター・マンドリン・コースに改称
2020年（令和2年）	短期大学部音楽科作曲コースと電子オルガン・コースを統合し、作曲デザイン・コースを開設 短期大学部音楽科ポピュラー・コースを改組し、ヴォーカルパフォーマンス・コース、ポピュラーインストゥルメント・コースを開設 附属音楽院さくら夙川校閉校

【3】 役員・教職員の概要

理事

理事定数10～15人 理事の現員数10人

役職名	氏名	執務	理事就任年月日	主な現職・前職等
理事長	中村 孝義	常時執務	2001年9月7日	大阪音楽大学元学長・大阪音楽大学名誉教授
副理事長	本田 耕一	常時執務	2009年4月1日	大阪音楽大学教授
常任理事	岡野 幸義	非常勤	2012年10月1日	公益財団法人 太平洋人材交流センター 理事長
常任理事	十川 輝明	常時執務	2010年4月1日	(住友生命社会福祉事業団元常務理事)
常任理事	福井 慎吾	常時執務	2016年5月29日	(大阪音楽大学前事務局長)
理事	北野 徹*	非常勤	2010年6月30日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>会長
理事	角 和夫*	非常勤	2019年12月1日	阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役会長 グループCEO
理事	田中 勉*	常時執務	2014年4月1日	大阪音楽大学教授
理事	永井 譲*	非常勤	1982年6月29日	大阪音楽大学元学長・大阪音楽大学名誉教授
理事	本山 秀毅*	常時執務	2018年4月1日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部学長

監事

監事定数 2人

監事の現員数2人

氏名	執務	就任(退任)年月日	主な現職・前職等
水瀧 征矢雄*	非常勤	2018年6月30日	(学校法人大阪音楽大学元常任理事・大阪音楽大学元教授)
川島 仁司*	非常勤	2020年5月29日	(住友生命保険相互会社元常務取締役)
花岡 浩二	非常勤	(2020年5月28日退任)	(住友生命保険相互会社元常務取締役)

評議員

評議員定数 21~31人

評議員の現員数22人

氏名	選任条項	就任年月日	主な現職・前職等
荒田 祐子	法人職員	2014年6月30日	大阪音楽大学教授
石橋 栄実	法人職員	2020年5月29日	大阪音楽大学教授、付属音楽院長
井上 建夫	学識経験者	2018年6月30日	公益財団法人守山市文化体育振興事業団 副理事長
岡原 慎也	法人職員	2014年5月30日	大阪音楽大学教授
小畑 有子	法人職員	2010年6月30日	大阪音楽大学付属音楽幼稚園園長
金田 忠行	学識経験者	2014年6月30日	サンスター株式会社 相談役
北野 徹	卒業者	2010年6月30日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>会長
木村 寛仁	法人職員	(2020年5月30日退任)	大阪音楽大学短期大学部教授
小林 義和	卒業者	2018年6月30日	尼崎市立尼崎双星高等学校教頭
駒井 肇	法人職員	2020年5月31日	大阪音楽大学短期大学部教授
坂口 尚平	卒業者	2013年4月1日	堺シティオペラ一般社団法人評議員/指揮者
崎山 和英	法人職員	2014年4月1日	大阪音楽大学事務局次長
芝 道雄	学識経験者	2018年6月30日	ダイキン工業株式会社コーポレートコミュニケーション室シニアスキルスペシャリスト
下村 義和	学識経験者	2020年1月30日	元豊中市消防局次長 豊中市消防局再任用職員
田中 勉	法人職員	2010年6月25日	大阪音楽大学教授
田辺 恭久	学識経験者	2020年4月1日	住友生命保険相互会社顧問
西山 健次	卒業者	2014年12月22日	大阪府立夕陽丘高等学校非常勤講師(音楽科)
福榮 宏之	法人職員	2013年9月20日	大阪音楽大学短期大学部教授
松尾 徹	学識経験者	2013年12月1日	非破壊検査株式会社顧問
松原 千代繁	学識経験者	2014年6月30日	公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団 相談役
丸谷 明夫	学識経験者	2010年6月30日	一般社団法人全日本吹奏楽連盟理事長
水谷 雅男	卒業者	2018年6月30日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>副会長
森本 徹	法人職員	2014年6月1日	大阪音楽大学事務局次長

役員賠償責任保険契約の概要

- ・被保険者：役員（理事・監事）及び評議員
- ・補償内容：役員及び評議員等（被保険者）の行為に起因して、被保険者に対して損害賠償請求がなされた場合に、被保険者が負担する法律上の賠償金等を補償する。
- ・保険期間：1年間

責任限定契約の内容の概要

- ・私立学校法第44条の5が準用する一般社団・財団法人法第115条に定める及び本法人寄附行為に基づき、理事5人*及び監事2人*との間で、私立学校法第44条の2第1項の最低責任限度額をもって責任の上限とする旨の責任限定契約を締結（2021年3月23日付）

学長及び幼稚園長

大阪音楽大学学長	本山 秀毅
大阪音楽大学短期大学部学長	本山 秀毅
大阪音楽大学附属音楽幼稚園長	小畑 有子

【4】 設置する学校・学部・学科等 及び 入学定員、学生数の状況（在籍数は2020年5月1日現在）

●大阪音楽大学 音楽学部

学 科	入学定員	入学者数	3年次編入 入学定員	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽学科	210人	191人	30人	900人	797人	0.89
計	210人	191人	30人	900人	797人	0.89

●大阪音楽大学 音楽専攻科

専 攻	入学定員	入学者数	在籍数	定員充足率
作曲専攻	1人	0人	0人	0.00
声楽専攻	5人	3人	3人	0.60
器楽専攻	14人	8人	8人	0.57
計	20人	11人	11人	0.55

●大阪音楽大学 大学院

研 究 科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽研究科	作曲専攻	2人	2人	4人	3人	0.75
	声楽専攻	4人	5人	8人	8人	1.00
	器楽専攻	7人	9人	14人	16人	1.14
計		13人	16人	26人	27人	1.04

●大阪音楽大学短期大学部

学 科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽科	100人	113人	200人	221人	1.11
計	100人	113人	200人	221人	1.11

●大阪音楽大学短期大学部 専攻科

専 攻	入学定員	入学者数	在籍数	定員充足率
音楽専攻	15人	20人	21人	1.4

●大阪音楽大学附属音楽幼稚園

学 年	定 員	在園児数
3歳児3学級	105人	100人
4歳児3学級	105人	94人
5歳児3学級	105人	92人
計	315人	286人

II 事業の概要

本法人は、学校法人としての公共性を高めるとともに、設置する学校における教育の質的向上を図り、社会の期待に応えるため「短期事業計画（2018年度～2021年度）」において必要な目標を設定し、その達成に努めてきた。しかし、私立学校法の一部改正に伴い、新たに2021年度から2025年度までの5か年度を対象とする「中期計画」を策定したため、同短期事業計画は2020年度をもって計画最終年度とした。この短期事業計画における重点推進項目は以下のとおりである。

<短期事業計画（2018年度～2020年度）重点推進項目>

- イ) 社会や時代が求める「音楽人」とは何かを常に問い直し、目指す音楽人育成のための教育体制を強化する。
- ロ) 教育水準をより高めるとともに、多様な学生にも対応する、両方向の施策を立案、実施する。これまでの様々な教育研究事業の妥当性の精査を図る。
- ハ) 地域及び社会との連携を図り、社会貢献事業を推進する。
- ニ) 「ちから強く生きる“音楽人”をここから」というメッセージをより一層社会に訴え、ブランドイメージを高める事業や効果的広報活動を推進する。
- ホ) 新校舎を含めた教育施設の効率的運用を、時間割の見直しとともに検討する。同時に既存施設改修事業を推進する。

上記の重点推進項目を踏まえ、2020年度においては、前年度に引き続き「財政の健全化を一層進めるとともに、『専門力と汎用力を兼ね備えた優秀な人材』を確保し、『教育の質的向上と特色化』を図る」こと、及び「社会から高く評価されるより高度な教育水準を達成することによって、社会や時代が求める音楽人を輩出させ、ステークホルダーの期待と要請に応える」ことを主旨とする事業計画を策定した。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、入学式の中止、緊急事態宣言発令に伴う学内立入禁止の措置、宣言解除後の遠隔授業の実施や施設の利用制限など、例年になく状況下での事業運営となった。

コロナ禍においても、音楽大学及び音楽短大としての学びの質を維持するため、飛沫防止のためのアクリル板の導入や用途に応じた消毒液及び消毒用機器の配備などを迅速に行い、前学期の後半から多くの授業を対面で実

施することにした。

予定していた演奏会や催事については、その多くが中止を余儀なくされたが、演奏、入試広報イベント、キャリアガイダンス等を動画配信やオンライン開催に切り替えて実施した。これによって得られた知見から、コロナ禍収束後におけるインターネットを活用した新たな事業展開の可能性と留意点が明らかになった。

以下 内は事業名を示す。

A 教育・研究事業

【1】大学院・大学・音楽専攻科・短大・短大専攻科

<大学院>

2020年度は作曲研究室1、音楽学研究室2、声楽研究室8、ピアノ研究室12、管弦打研究室4の計27人が在籍し、各研究室による修士演奏、修士論文の審査と口述試験の結果、作曲1、声楽3、ピアノ6、管弦打1の計11人が修了した。11月24日に大学院定期演奏会をザ・カレッジ・オペラハウスにおいて開催し、学生の研究成果である多彩なプログラムによって、本学大学院の質の高さを内外に示すことができた。2021年度入学者選抜については、前期・後期日程を合わせて21人が合格した。

<大学>

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、前期の開始当初は遠隔授業となったが、レッスン科目及び一部の演習科目は感染防止対策を講じて早期に対面授業に移行した。後期には約70パーセントの授業が対面によって実施された。

2020年度は音楽学部音楽学科に797人が在籍し、189人が（うち7人は前期に）卒業した。卒業生の中から、最優秀賞4人、優秀賞14人、音楽・社会活動賞4人を表彰した。また、ヴォーカルパフォーマンス専攻及びポピュラーインストゥルメント専攻を新たに開設した。

新型コロナウイルスの感染拡大防止及び学生、教職員、来場者の健康・安全を考慮し、昨年度中止となった吹奏楽演奏会、卒業演奏会、卒業式については、感染拡大防止対策を徹底した上で開催した。

<大学専攻科>

音楽専攻科には11人（うち6人は、新型コロナウイルス感染症の拡大を懸念し休学）が在籍し、5人が修了した。授業「音楽実践演習」の一環として、学生自らが企画・演出・出演する「オータムコンサート」をLICはびきの（10月17日）、洲本市文化体育館（11月21日）の2会場で実施し、社会における実践的活動を体験した。在学者数の関係で、例年より出演者がかかなり少ない公演となったが、工夫を凝らした企画によって内容の濃い公演となり、来場者へのアンケートには好意的な意見が数多く寄せられた。

<短大>

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、前期の開始当初は遠隔授業となったが、レッスン科目及び一部の演習科目は感染防止対策を講じて早期に対面授業に移行した。後期には約70パーセントの授業が対面によって実施された。

音楽科には221人が在籍し、81人が（うち2人は前期に）卒業した。卒業生の中から最優秀賞2人、優秀賞8人を表彰した。年度末には授業・レッスンの集大成として、各コースのコンサートが行われた。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び学生、教職員、来場者の健康・安全を考慮し、昨年度中止となった吹奏楽演奏会、卒業演奏会、卒業式については、感染拡大防止対策を徹底した上で開催した。

<短大専攻科>

短大専攻科には21人（新型コロナウイルス感染症拡大を懸念し9人が休学、うち1人は後期復学）が在籍し、11人が修了した。修了生の中から音楽・社会活動賞1人を表彰した。短大専攻科に在籍する学生全員が自ら企画・出演する「コンサート・プロデュース」の演奏会は7月の開催を予定していたが、感染拡大防止のため授業日程が変

更されたことに伴い、9月2日にミレニアムホールで開催された。立案・準備・練習の期間を含め、感染防止対策を行う中での開催にもかかわらず、例年と遜色ない完成度のコンサートとなり、学生にとって貴重な経験となった。

<キャリア関連>

新型コロナウイルス感染症の影響によって入学式が中止となり、それに伴い新入生保護者対象のキャリア支援ガイダンスも中止となった。

大学3年次生、短大1年次生を対象とした動画配信による進路ガイダンス(大学3年/241回視聴、短大1年/95回視聴)においては、卒業後の進路について理解を深め、自発的かつ具体的な行動を促す契機となるように配慮した。また、企業就職志望者を対象にMIRAIセミナーを9回実施、自己分析・エントリーシート対策やSPI性格検査等を提供した(参加者延べ82人)。

これらに加えて、進路に係る各種採用説明会を実施した。主に音楽教室(ヤマハ、カワイ、三木楽器等)の講師採用説明会や公立学校教員採用(大阪府、大阪市、堺市、豊能地区、神戸市)説明会を実施した。他にも多様な進路選択に対応するために、自衛隊音楽隊(陸上、航空)や合同会社ユー・エス・ジェイ、河合楽器製作所等の採用説明会を実施した。また、卒業生による懇談会MIRAIカフェの中で多様な進路を在學生に提示することができた。

こうした説明会等の他に、講座やセミナーを多数開催した。教員採用試験対策として筆記試験及び模擬面接なども行った。音楽教室講師を目指す学生には、ヤマハ音楽指導及び演奏グレード5級取得準備講座、音楽教室起業セミナーを開催した。また、全保護者を対象として、本学のキャリア支援の仕組みに関するガイダンスの動画配信と、社会で活躍する卒業生とのオンライン懇談会を実施した。

キャリア支援センターにおける学生支援の柱の一つである定期学生面談を大学3年次生(6月～7月)・短大1年次生(10～11月)を対象にリモート面談も交え実施した。この学生面談・相談は定期以外にも年間を通じ随時実施している。

キャリア教育の一環であるインターンシップは、公共ホールや楽器店、音楽団体などの協力を得て年1回春期に実施し、マナー等の事前指導を行った上で13の企業・団体に延べ34人を派遣した。その他、一般企業へのインターンシップ希望者には、大学コンソーシアム大阪、兵庫県経営者協会と提携を結び、希望学生の受付、申請を行った。

CI活動の再点検とそれに基づく教育改革

●要旨

2015年度までに取り組んだ「CI(カレッジ・アイデンティティ)活動」を再認識し、教育、研究の場に生かすことを2018年度から4年間の方針とし、学長のリーダーシップにより「CI活動」での取り組み内容をベースにして教育改革を推進した。

●成果及び達成度

本格実施2年目となった教員評価制度は、各教員の教育活動及び教育能力等の自己評価を第三者が点検確認した後、面談によって目標水準を示すものであり、本学はこの制度を通じて教育力の向上と人材育成に取り組んでいる。また多様な学生を受け入れることにより生じる新たな課題について、リメディアル教育のシステムや学生のメンタル面をケアする体制の充実により積極的な取り組みがなされている。卒業生の進路について一般企業への就職率が上がっていることを受けて、キャリア教育の重要性が問われている。キャリア事務部門と中心としたサポート体制に加えて、音楽専門教育との相乗効果を図りながら展開され成果を上げている。2022年度開設予定のミュージックビジネス専攻について、従来の音楽大学の既成概念を打ち破る将来を見据えた内容を包摂するものと位置づけ成功を期する。

●今後の展望

大学としての具体的な方針は以下のとおりとし、引き続き教育改革を推進する。

・目指す方向性

本学が継承してきた、音楽に対する見識や技術を高めること、世の中に認められる優秀な学生を育成することは堅固に維持しつつ、多様な学生に対応する基礎力の向上、学習支援の充実に努める。

・存在意義

社会に対する存在意義として「ちから強い音楽人」を育成、輩出することを掲げる。高い音楽性や技術はもとより、音楽に対峙する中で得られる忍耐力、集中力、創造力、協調性などを持つ人材を育成することに努める。

・在り方

新しく立ち上げられた専攻、続いて設置構想が実現する専攻が、伝統的な音楽教育から得られる成果と対峙し刺激しあうことにより、ほかには見ることでできない独自の成果を創り出すことが可能となる。この向性が本学の将来の在り方を示すことになる。

ミュージックコミュニケーション専攻 年間イベント

●要旨

コロナ禍の影響によって「阪急宝塚線ミュージック駅伝 MOT!」や有料コンサートの「ライブペインティング」「ジャズ」等が中止となったが、オンラインによる「アートエリア B1」を実施することができた。地域社会との連携の面では、「地域でつくる吹奏楽団」「子どもの食堂」「商店街店主インタビュー」等の活動に取り組んだ。

●成果及び達成度

前述の「子どもの食堂」「商店街店主インタビュー」は豊中市の補助金事業として採択された。また、自主的なイベントを企画立案する他、「邦楽演奏会」「ミュージカル公演」における舞台マネジメントに関わった。

●今後の展望

新型コロナウイルスの問題が解消した場合、2021年度に「阪急宝塚線ミュージック駅伝 MOT!」を再開する予定としている。また、学生の国家資格の取得を視野に入れ、今後、各イベントにおいて舞台マネジメントの実体験をさらに充実させる予定である。

●助成金等

「子どもの食堂」に豊中魅力アップ助成金を、「商店街店主インタビュー」に豊中地域サポート応援事業助成金を受けた。

声楽特任准教授による特別講義の開講（歌唱表現特別研究）

●要旨

日本のトップレベルの歌手として活躍している林美智子、幸田浩子、藤田卓也の各特任准教授による公開レッスンを特別講義の形式で2020年10月12日から2021年1月25日まで12回にわたって実施した。当初は21回の予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のため後期からの開講となった。

●成果及び達成度

毎回、公開レッスンの形式で2人の受講生が専門性の高い指導を受け、専門実技の向上を目指す上で貴重な機会となった。

●今後の展望

2021年度から授業科目としてカリキュラムに組み入れることとなり、2020年度が特別講義としての最終年度となった。

ポピュラー・コース特別講義

●要旨

シンガーソングライター、作詞家、作曲家、編曲家、音楽プロデューサーである AILI 氏による特別講義を 2 日間・合計 4 コマを実施した。テーマは「学生の楽曲に対する講評」「プロフェッショナルな現場での音源制作」「注目するアーティストの紹介」であった。この特別講義の中では特に Logic Pro X を活用した斬新な音作りについて詳しい解説があった。

●成果及び達成度

学生にとって、創作において取り組むべき課題が明らかになり、今後の楽曲制作への刺激となった。

●今後の展望

音楽シーンの最前線で活躍するミュージシャンからの指導を継続的に実施することによって、学生が楽曲のクオリティを現場レベルに高めていくことが期待される。

eラーニングの導入

●要旨

2021 年度総合型選抜及び学校推薦型選抜の合格者を対象に入学前教育として英語の eラーニングを実施した。入学前教育の趣旨に沿って、初級、中級、上級に加え基礎からの英文法の計 4 コースの中から入学予定者が 1 つを選択することとし、本学が受講費の半額を負担した。学習状況の確認は外国語の専任・非常勤教員が分担し、必要に応じて助言を行った。

●成果及び達成度

当初は eラーニングに着手しない入学予定者が多く見られたが、最終的に受講申込者の大半が学習を進めることができた。学習中のコース変更の希望をある程度見込んでいたが、送付資料で内容を詳しく案内したこともあり、アカウントの変更は発生しなかった。

●今後の展望

アカウントが 1 年間有効であることから、入学後は授業や学習支援の教材としての活用が期待される。

プロダクション「大音ラボ」の運営

●要旨

学生の実践的な学びや経験の場として、また大学と社会をつなぐものとして、ミュージッククリエイション専攻が主体となり、渡邊崇教員を中心にプロダクションを運営し、助手を企画推進の中核として事業展開をした。この事業は、学生が将来音楽で働くための実践的な活動の場を提供することを主目的とし、働くことの一面を経験することで学生自身がキャリア形成への関心を深め、卒業後のイメージの具体化に寄与することも目的に含まれる。

またプロジェクトとして、企業・機関からの依頼による音楽制作など収支バランスを考慮した事業展開を行った。

●成果及び達成度

2020 年度は学生の学外プロジェクトとして以下の 7 プロジェクトを実施した。参加した学生、卒業生の人数は以下のとおり（教員・学外業者等は除く）である。

〔ミュージッククリエイション専攻プロジェクト〕 音楽制作・ライブ等

「納得住宅工房」CM 音楽制作（学生 5 人・卒業生 1 人）・「リスクベネフィット CM」サウンドロゴ制作（学生 9 人）・毎日放送「マンスリーレポート」音楽制作（学生 5 人・卒業生 1 人）・「静岡鑑定団」CM 音楽制作（学生 4 人・卒業生 1 人）・仙台放送「オガッタ！」音楽制作（学生 2 人）・TV アニメ「しまじろう」オーケストラ動画作成（卒業生 29 人）・「遠州鉄道不動産」CM 音楽制作（学生 4 人）

上記以外にもミュージッククリエイション専攻では、「Demo 送付支援」として学生が制作した音源を音楽事務所

等へ送付する活動を実施した。学生1人当たり10社への送付を求め、合計212通を音楽制作会社等へ送付した。

[著作権管理]

㈱日音から印税の支払いがあり、著作者の学生及び卒業生へ分配を行った。

[音楽配信事業]

Daion Lab をレーベルとして2019年5月から音楽配信を開始している。

●今後の展望

学生の音楽制作の実践的な場となる学外プロジェクトを継続して行う。また、それらが学生のキャリア形成に結びつくよう支援していく。

2021年度からヴォーカルポピュラー専攻・コースの学生もプロダクション活動に参加していく予定である。

教員採用試験二次試験対策講座

●要旨

公立学校教員採用試験の一次選考合格者を対象に、二次試験対策として模擬授業、実技試験、面接練習等の指導を行った。

8月に直前対策を実施することによって、教員採用試験の現役合格者の増加を目指した。

●成果及び達成度

各自治体の教員採用試験1次合格発表時期(8月上旬)に学生へ周知し、12人の学生(延べ61人)が参加した。そのうち5人が二次試験に現役合格することができた(大阪府2人、豊能地区1人、神戸市1人、奈良県1人)。

教職の橋本龍雄、園田葉子、長谷川真由、片岡潤子の各教員が指導にあたり、自治体別に模擬授業、リコーダー指導、ピアノ弾き歌い指導、面接練習の対策を行った(5日間で約43時間)。

初日のみ対面で実施、8月10日以降はコロナ感染予防のため急きょ遠隔で実施した。グループ指導を中心に、学生の要望に応じて個別でも対応した。9月下旬に実施した事後アンケートでは、「受講して良かった、改善点を教わった、模擬授業の構成を考える手助けをしてもらった」等、指導教員への感謝の言葉が寄せられた(回答率66パーセント)。

●今後の展望

2021年度は二次試験対策に加えて一次試験対策も行い、教員採用試験の現役合格者の増加を目指す。採用試験の前年度からの筆記試験対策講座や実技対策講座に加え、外部講師による面接指導など、定期的な対策を実施する。

上記対策と併行して、卒業生との交流を通じ、最終年次の学生に対し教育実習や進路選択に役立つ情報を発信できるように、教職部会、教職支援室、教務担当と連携する。

【2】国際交流

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、海外提携校に関わる留学生の送出しや受入れは一切行われなかった。しかしながら、2021年度に向けてスウェーデンの大学から提携校の協定締結に向けた提案があり、国際交流推進委員会で審議することとなったコロナ禍の収束後を見据えた国際交流の準備期間となった。

【3】学生生活支援・福利厚生

2019年度に学生相談室を利用した学生は延べ463人であり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から利用者数は前年度よりもかなり少なくなった。しかし、登校後に学生相談室で一旦落ち着いてから各教室に向かう者もあり、一部の学生には必要不可欠な場所となっている。また、2016年4月から施行された通称「障害者差別解消法」によって、合理的配慮が年々強く求められるようになったことから、2020年度以降はインターカーが常駐する曜日を1日増やし、月曜日から金曜日までの週5日開室した。

奨学金の面では、本学独自の制度である「大阪音楽大学奨学事業財団奨学金」の2020年度の新規貸与者は、大学11人、大学院2人、短大3人であった。これに加えて、2020年度のための措置として、在学生を対象とする緊急特別奨学金の制度を設け、大学院、大学、短大の学生、合計16人に100万円を上限とする貸与を行った。

学習支援室（外国語）の運営

●要旨

2020年度から音楽理論やソルフェージュに加え、外国語の学習に不安を抱える学生のため、専用の学習支援室を開設した。開室時間は授業期間中の水曜日13:00～17:45とし、非常勤助手1人が対応に当たった。

●成果及び達成度

利用者は前期18人、後期18人であり、大学院進学に向けた英語の受験対策が主な相談内容であった。

●今後の展望

英語の習熟度が低い学生の利用を促すことが今後の課題であり、授業内において教員が積極的な活用を呼びかける。

本学独自の修学支援制度

●要旨

2020年度の大学2～4年次生、及び短大2年次生の中で以下の要件を満たす学生を対象に、前期25万円、後期25万円の授業料減免を実施した。

- ・2020年度の住民税非課税世帯であること
- ・学修計画書によって、学修意欲や人生設計が確認できること
- ・留年せずに進級したこと

●成果及び達成度

審査の結果、大学35人、短大6人に対して授業料を減免した（半期のみの学生を含む）。

●今後の展望

この制度は2020年度限定の措置であり、適用を受けた学生は2021年度以降、国の修学支援新制度において給付奨学金及び授業料減免を申請することを想定している。

【4】教員の研究活動

2020年度は、持ち回り審議2回を含め、研究委員会を11回開催し、主として研究活動の活性化について協議した。しかしながら、研究助成の第2区分に該当する学術研究、芸術研究、研究成果公開については、助成実績がなかった。これは申請承認後の取り下げが1件あったことなど、コロナ禍の影響も関係する。活字業績の面では、投稿された原稿の査読を行った上で『大阪音楽大学研究紀要第五十九号』（研究ノート2編、報告2編を収録）を3月末にホームページに公開した。また、図書館分科会として新規購入資料の選定を行い、今後の選書の方法について意見交換を行った。科学研究費に関しては、専任教員2人が過年度に採択されたテーマによる研究を継続している。

FD推進

●要旨

FD総括委員会は、休校期間中の4月を除き5月から予定どおり10回開催され、2020年度活動案に従い、FDフォーラム、授業改善計画書、授業見学、教学IR分科会との連携、成績分布状況の把握、アクティブラーニングの研究、FD講習会への教員の派遣、FD研修会の実施について議論を重ねた。

●成果及び達成度

各部会から提出された2019年度FD活動報告書を基にしたFDフォーラムを6月と7月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催できず、その代替として報告書を基に部会ごとに所見をまとめ、これを冊子とすることでFDフォーラムに代えた。授業改善計画書の作成は予定どおり行われた。外部講師を招いて行うFD研修会や教員相互の授業見学は、コロナ禍の影響で実施できなかった。

成績分布状況の把握は、本学の組織的な取り組みとして初めて行われた。2019年度成績分布状況のデータを基に、現状把握と改善策を部会ごとにまとめた冊子「成績分布状況の検証結果」を作成し、全教員に配付した。これをFD総括委員会だけではなく大学・短大運営会議でも取り上げ、学修成果の点検・評価及び内部質保証の認識の共有に努めた。

FD講習会への教員派遣については、オンラインで行われた講座の参加希望者を募り、参加した教員による口頭での成果報告を実施した。

●今後の展望

授業見学はこれまでは見学の呼びかけにとどまっていたが、専任教員は年間1回行うことの合意を目指す。アクティブラーニングの研究については、専攻・コースにかかわらず効果的なアクティブラーニングを授業に取り入れるため、様々な実践例の共有化を図る。各部会のFD活動の内容を口頭発表するFDフォーラムは、書面だけでは分からない多様な活動を知る機会となるため、報告書の作成に合わせて開催する。成績分布状況の把握・検証は、引き続き毎年行い、成績評価方法等の改善につなげる。外部講師によるFD研修会は、非常勤教員も含め広く認知されてきたが、より多くの教員の参加を促す。

【5】自己点検・評価体制

自己点検・評価統括委員会を10回開催し、その中で、遠隔授業への移行に伴いポータルシステム上での実施となった「学生による授業評価アンケート」の設問項目を精査した。教員向けの遠隔授業アンケートも行い、集計結果と改善項目をポータルシステム上で公表した。また、2018年6月発行の大学・短大の自己評価報告書における「改善・向上方策（将来計画）」の進捗状況の把握や学生満足度調査の集計結果の分析を行うとともに、入試制度の変更による大学・短大のアドミッション・ポリシーの改定原案、自己点検・評価に係る大学・短大・大学院のアセスメント・ポリシーの原案、大学と短大を包括する内部質保証に関する方針の原案を策定した。このうち、アドミッション・ポリシーについては、その改定後に行われた入学者選抜の実施状況に関する調査を実施した。

2021年度の認証評価受審に向け、「受審の手引き」における評価の視点と自己判定の留意点に基づき、同委員会として大学・短大の運営会議等における自己点検・評価の実質化の推進に留意した。

学生による授業評価アンケート

●要旨

自己点検・評価活動の一環として、「学生による授業評価アンケート」を実施した。2020年度はコロナ禍の影響によって、多くの科目において遠隔授業が行われたこと、またアンケート用紙の手渡しに伴う感染防止のため、従来の紙媒体からポータルシステムを活用したwebアンケートへ切り替えた。「個人指導による音楽実技」（レッスン）科目は後期において、それ以外の科目は前期及び後期においてアンケートを実施し、教育課程別・科目分野別・科目別等に集計後、授業担当教員に集計結果及び自由記述意見欄の記載内容を返却した。

●成果及び達成度

大学・短大の全教育課程における2020年度全体のwebアンケートの回答率は28.4パーセントであった。学生への案内を繰り返し行ったが、前年度の紙媒体での回収率79.7パーセントを大きく下回った。アンケートの集計結果は冊子にして、2021年度前期中に図書館、教職員集会室等、学内数カ所に配備する予定である。アンケートについ

ては、「授業時間を除き、この授業のために費やした予習や復習など1週間あたりの平均的な学習時間」及び「教員から授業外の学習について指示があった」等の従来の設問に加え、教育の質保証に関する調査の一環として、講義・演習科目については「授業のねらい（到達目標）」の達成度、レッスン科目については「自ら設定した目標、または担当教員と相談した目標」の達成度を問う項目を新たに設けた。

●今後の展望

アンケートの実施に当たっては、学生・教員への周知を徹底するとともに、過去の設問項目との整合性・継続性を踏まえた上で、学生の能動的な学習行動を推進する設問のあり方を引き続き検討する。今後も同アンケートを継続してデータを蓄積し、教育改善に向けた議論の基礎資料として自己点検・評価統括委員会や大学・短大の運営会議等において活用する。また、2021～2025年度中期計画におけるEM（Enrollment Management）を推進するため、現在の無記名式アンケートを記名式に変更することについて自己点検・評価統括委員会を中心に議論する。

自己点検・評価

●要旨

大学・短大の各教育課程における3つのポリシーの達成状況の把握のため、各教育課程の運営会議体がアセスメント・ポリシーに基づいた点検・評価を実施し、その結果を自己点検・評価統括委員会が確認・検証した。また、2018年6月発行の大学・短大の自己評価報告書における「改善・向上方策（将来計画）」の達成状況に関する調査を実施し、大学・短大別に「自己評価報告書における改善・向上方策（将来計画）とその進捗状況に関する報告書」を作成した。

2021年度の認証評価受審に向けた大学・短大の自己点検評価書については、自己点検・評価統括委員会の構成員が中心となって執筆を続けており、2021年5月上旬に初稿完成の予定である。

●成果及び達成度

必要な規程等を追加制定したことによって、教育に係る自己点検・評価の着実な体制が整い、教育の内部質保証に係るPDCAサイクルの強化を図った。また、大学、短大及び大学院のアセスメント・ポリシーに基づき、学生満足度調査や修了時アンケート、GPAの分布、学籍異動率、教育職員免許状の取得状況、卒業・修了後の進路等のデータをもとに教育の点検・評価を実施した。その結果、以下の事項について特に留意が必要との認識に至った。

- 1) 現在、教学IR分科会において学内の各種データをもとに、主に統計的な分析に取り組んでいるが、将来的に、個々の学生に対し最適な指導を行うため、多様な情報を学生個人ごとに整理・収集するデータベースの構築を目指す必要がある。
- 2) 多様な学生の受入れに伴い、学生支援室や学習支援室、入学前教育等の体制が整いつつある。しかし、学生の休学・退学率は改善しておらず、問題を抱える学生をその特性に応じて継続的にコーチングする必要がある。このため、担当事務部門への手厚い人員配置が急がれる。

●今後の展望

本学は、これまで教育に係る自己点検・評価に関し、入学年次及び卒業年次での学生満足度調査、成績分布、学修時間、学修行動等について、主に統計的・数量的な視点から把握してきた。このような全体像を捉えることに加えて、新たにEM（Enrollment Management）の考え方を取り入れ、入学前の面談記録、入学者選抜における成績、奨学金履歴、単位修得状況、GPA、授業科目の選択傾向、学習支援の状況、卒業後の進路等の情報を学生ごとに集約して分析し、ミクロ的な視点からの教育目標等の達成度向上を目指したい。また、教育の内部質保証の観点から、学修成果の把握・可視化を一層推進する必要があるため、各学生の卒業時におけるディプロマ・ポリシーの達成度を説明するディプロマ・サブプリメント（学位に関する補足的文書）等の導入によって、学修成果をよりの確に把握できる仕組みの構築を検討する。

授業改善計画書

●要旨

2019年度後期の「学生による授業評価アンケート」の集計結果をもとに、専任教員が担当する全科目（リレー授業等の一部科目を除く）及び一部の非常勤教員が担当する科目について授業改善計画書を作成した。これら個別の授業改善計画書は講義・演習科目については教育課程別に、レッスン科目については教員別にまとめてCD-Rに集成し、同計画書を執筆した全教員に配付した。

●成果及び達成度

授業改善計画書の目的の一つは、各教員が授業の内容と実施方法を着実に振り返ることによって、改善への「気づき」をもたらすことである。また、同計画書をCD-Rとして集成し、各教員に配付したことによって、他教員の授業の状況や「気づき」を参照しやすくなり、それを各自の授業実践に反映させることを通じて、本学全体の教育の質向上に役立つことが期待される。なお、集成した授業改善計画書は、「学生による授業評価アンケート」に対するフィードバックとして、学生及び教職員が自由に閲覧できるように、付属図書館、学生支援センター、教職員集会室等に配備した。

●今後の展望

今後も前年度後期の「学生による授業評価アンケート」の集計結果を基にした授業改善計画書の作成を継続する。現在、全専任教員に授業改善計画書の作成を義務付けているが、非常勤教員にも作成を促し、より充実したものにする。

【6】音楽メディアセンター 付属図書館

図書館では入館者の健康チェックや入退館時の手指消毒に加え、滞在時間に制限を設ける等、入館者の感染防止に努めた。利用者数については、遠隔授業の実施によって登校者数が少なくなった影響等もあり、本年度の学生の利用状況は例年度の3分の1程度となった。このような中で、視聴覚資料の保全を図る目的から、著作権に配慮しつつ、経年劣化が想定されるVHSビデオテープのデジタル化作業に着手した。

また、以前からの課題であった、資料資産を正確に把握する観点から、視聴覚資料の原簿（約54,000点）と所蔵資料との照合作業を行い、その結果をシステムデータに反映させた。これによって、視聴覚資料の原簿と実際の所蔵状況が一致することとなり差異がなくなった。

その他の資料に関しては、経費削減のため、音楽データベースの契約の見直しと、就活関連資料の購入を見合わせることにした。

これらの活動を経て、2021年3月31日現在の資料数は図書・楽譜を合わせて約114,000点、視聴覚資料が約54,000点となった。

【7】音楽メディアセンター 楽器資料館

学内公開と一般公開については、本学の新型コロナウイルス感染症拡大防止方針によって5月31日まで閉館し、6月1日から通常勤務を再開した。感染防止のための十分な対策が確認された授業科目から対面授業に移行したことを受け、学内関係者に限定して開館した。また、2021年3月の緊急事態宣言解除後から、日時、人数を限定して一般公開を再開した。

館内授業については、前期に予定されていた対面授業がオンラインに変更となったため、新たに教材を作成しこれに対応した。後期から館内での対面授業を再開し、少人数での授業を4回受け入れた。

館内整備作業として、閉館期間を利用し、楽器資料館設立の契機となった「水野佐平邦楽器コレクション」の名品を選出し、細部を観察できるように展示替えを行った。また、「サントリー弦楽器コレクション」のギターの変遷過程を示す楽器の展示替えを行った。このほか、スポット解説について、展示資料の情報を記したキャプション（題

箋、説明文)を最新の研究成果に基づいて更新し、展示資料に関するスポット解説の充実に努めた。地震に備え、展示ケース内での展示楽器の破損、汚損を減じる対策を実施した。

学外機関・団体との連携・協力においては、当館が加盟する「かんさい・大学ミュージアム連携」の事業「近代遺産の発掘と活用 寄贈資料を引き継ぐ～SPレコード～」でのオンライン座談会を、大阪芸術大学博物館、関西大学博物館と共催した。2016年の楽器資料館の移転にあたり、SPレコードコレクション約15,000点を、大阪芸術大学博物館、関西大学博物館に委譲した経緯から、委譲先2館でのその後の整理作業及びデータベース構築の報告とともに、今後の展開について話し合われた。

保安・防災の面では、新型コロナウイルス感染症拡大防止方針を基に、来館者、館スタッフへの注意喚起とともに、消毒、検温、換気などの感染防止対策を実施した。また、展示室内及び来館者の動線を踏まえた防災訓練を行い、避難誘導灯、消火器の位置などを確認した。多人数での利用に備え、安全対策の点検とともに、殊に避難経路の確認を重視した。なお、備え付けの車椅子についても随時点検を実施している。

図書・視聴覚資料、旧研究所資料については、過年度データの遡及入力を進め、旧音楽文化史研究室の資料(関西音楽史資料)の実態を明確にする作業を推進した。

楽器資料館展示ケース内照明器具取替え

●要旨

展示ケース内の照明をすべて蛍光灯からLEDに切り替え、2018年度から3か年度にわたる特別事業が終了した。

●成果及び達成度

旧来のケース内上部の照明器具は、通常の蛍光灯と紫外線防止型などの特殊蛍光管を使用してきた。将来的に、器具等の入手困難が見込まれることから、3か年度の計画に沿ってLED照明器具への取替えを完了した。

この事業は、展示資料に対する照度を考慮した鑑賞しやすい環境の整備、展示品の保全、節電も目的とする。すなわち、LED照明への取替えについては、①消費電力が少ない、②器具の寿命が長い、③発熱が少ない、④展示資料に有害な紫外線がほぼ発生しない、⑤今後の器具等の入手困難を回避できるとの利点が挙げられる。

従来の蛍光灯照明よりも明るくなったことで、展示楽器の細部や装飾がより見やすく、スポット解説も読みやすくなり、常連の利用者から高い評価を得ている。殊に日本の伝統工芸「象嵌・蒔絵・螺鈿」などが施された日本の伝統楽器、西洋楽器のヴァイオリンの精巧な細工とニス状況、管楽器群の細かなパーツも確認できるなど、視認性を高める効果があった。

●今後の展望

展示室の照明に関し、天井からのスポットライトの増設等で、さらに「見やすい展示」を計画していく。

【8】附属音楽幼稚園

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、全国的に前年度3月～当年度5月末まで学校園は休校及び休園となった。本園も同期間において休園措置をとりつつ、豊中市からの要請を受け新2号認定児(預かり保育の無償化対象として、保育の必要性の認定を受けた幼児)に対しては、十分に感染予防に努めながら保育を実施した。緊急事態宣言の解除に合わせて5月25日から段階的に保育を再開し、6月22日から通常保育を実施した。11月中旬、新型コロナウイルス感染症の陽性者が本園関係者から確認されたため豊中市保健所と連携し、11月16日～11月27日を臨時休園とした。また、入園式は中止とし、通常保育再開後は行事、イベント、サークル活動の全てについて中止または規模を大幅に縮小して実施した。

在園児は5月1日付けで286人(3歳児3クラス100人、4歳児3クラス94人、5歳児3クラス92人)、3月には5歳児91人が卒園した。

2歳児親子教室「りんごクラブ」は35組募集のところ、前期(6月～9月)は41組、後期(11月～2月)は55

組の申込があり、昨年度と同様クラスを増設して実施した。

音楽教室「クレフ」（希望者対象のピアノ・ヴァイオリン・マリンバの3種の課外レッスン）は、6月1日時点で対象園児の42パーセントに当たる81人が受講した。

幼稚園教諭募集活動

●要旨

待機児童ゼロ政策による保育士需要の高まり及びそれに伴う急激な処遇改善の実施や、担任制を敬遠する学生気質の変化等により、幼稚園教諭の新規採用が難しくなっている。従来から行っている養成校への採用募集資料配布への反応は弱く、大半の学生はインターネットによる情報収集を行っているため、学生のアクセス数が多い就活サイトを教諭の人材確保に活かす。また、私立幼稚園連盟主催及び集客力のある企業主催の就職フェアに参加することを本園のPR及び人材確保の手段として活用する。応募者数を増やすことで優秀な人材の採用とさらなる教員の質の向上を図る。

①ベルサントスタッフ株式会社主催の「ほいコレ就職フェア 2021 in グランフロント」へ参加（7月23日）

②豊中市私立幼稚園連合会等主催の「保育園、幼稚園、認定こども園就職フェア in とよなか」へ参加（8月9日）

③ハローワーク（インターネットサービス含む）及び養成校への採用募集資料配布

上記に加え、求人情報が行き渡るよう努めるとともに、園見学に訪れた学生に対し、本園の保育に触れ、保育の楽しさを感じることができるよう見学だけでなく、実際に保育に関わる機会を設けた。

●成果及び達成度

・募集人数が多く、またコロナ禍の中での求人活動のため、人材確保の困難さが懸念されたが、就職フェアではブースでの個別の説明を求める学生や、就職フェアをきっかけに本園の見学を訪れた学生もいた。

・現場に触れる機会を設けたことで、本園に興味を持ち就職へとつなげることができた。

・学生同士やSNSによる情報の広がりを見ると、より多くの正確な情報を就職フェアや本園の見学を通じて伝えられたことは、非常に有意義であった。

・また、ハローワーク（インターネットサービス含む）及び養成校への採用募集資料の配布を継続したことの効果もあり、募集活動全般の成果として募集人数を超える応募者があった。2021年度は教諭の欠員なく保育をスタートさせることができ、優秀な人材の確保の目標を達成したといえる。

●今後の展望

人材の育成に取り組むとともに、今後もこのような就職フェアに継続的に参加し、本園の認知度を高めるとともに、就職希望者に対し本園の保育内容を適切に伝えていきたい。また、就職フェアへの参加を通じて、他園の状況把握や情報収集にも努める。

B 社会連携活動事業

【1】アドミッション事業

入学者選抜広報関連として、オープンキャンパスや体験レッスン、セミナー、ワークショップなどの各種イベントを年間を通じて開催した。コロナ禍で一部のイベントが中止となったが、オンライン開催への切替えや、適切な感染防止対策を施した上で対面でのイベントを多数開催し、より多くの人に本学への関心と志望度を高めてもらうよう努めた。

新しい入学者選抜制度の導入年度であったが、総合型、学校推薦型、一般、後期総合型の4種類の入学者選抜とそれに関連する音楽基礎科目認定テスト及び進学実技適性テストの業務を滞りなく実施した。

オープンキャンパスの開催

●要旨

オープンキャンパスにおいて専攻・コース別のイベント及び入試センタースタッフによる個別相談会を開催した。本学の充実した教育環境と魅力を伝える機会として、予定していた4月・7月・10月の3回のオープンキャンパスのうち、4月は中止し（ミュージッククリエーション専攻のみオンラインで実施）、7月・10月は全専攻・コースで実施した。

●成果及び達成度

7月は390人、10月は255人の参加者があったが、本年度全体として4月中止分を補うには及ばなかった。しかし、参加者の本学志願率が過年度よりも高まり、高校3年生の参加者の75パーセント以上が本学を受験したことから、オープンキャンパスの目標は概ね達成された。また、ミレニアムホールで実施した短大の作曲デザイン・コース、大学の電子オルガン専攻及びミュージッククリエーション専攻のイベントを動画サイトでライブ配信した結果、試聴数は各専攻・コースとも200回を超え、一定の成果を収めた。オープンキャンパスがきっかけになって、トライアルレッスンやその他の専攻・コース別イベントに参加する人も見られ、受験生にとって本学を知る最良の機会となっている。

●今後の展望

参加者の増加を目指し、更なる受験生の確保に向けた貴重な機会とするため、①「イベントの周知」②「イベント内容の見直し」の2点を今後の重点課題とする。①については例年同様、資料請求者への資料送付、高校への周知、高等学校教員への個別案内に加え、SNSでの発信・広告によって資料請求者以外への周知を高める。②についてはオープンキャンパス参加者のアンケート結果や各専攻・コースの志願率などを参考に、受験に直接的につながる内容や高校生が関心を持つ内容への変更を行う。

吹奏楽フェスティバルの開催

●要旨

4月に中学・高校の吹奏楽部員を対象に、本学学生による吹奏楽コンクール課題曲の演奏や本学教員による楽曲分析講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発出され、開催中止となった。

●今後の展望

コロナ禍において、活動が制限されている中高生に対して、吹奏楽への興味喚起を促すだけでなく、吹奏楽コンクールに向けた研鑽の場として、充実したイベントを開催する。さらに、吹奏楽に携わる全ての参加者に対して、本学の魅力（教員・施設・カリキュラム）をイベントを通してアピールする。

また、本学の感染症防止対策についても、吹奏楽関係者に知っていただく良い機会と捉え、広報活動を展開する。

ピアノ専攻教員による広報活動

●要旨

ピアノ専攻・コース広報活動のため、①ピアノに取り組む小・中・高校生及び指導者を対象としたピアノ関連テーマのセミナーと懇親会、②特任教授による公開レッスン、③遠隔地の生徒を対象とした公開マスタークラス&ミニコンサートを実施した。

●成果及び達成度

①ピアニストの海老彰子氏をゲスト講師として招聘し、第1部をミニコンサートとトークセッション、第2部を懇親会とする2部構成で開催した。70人近い参加者があり、各参加者との良好な関係を築くことができた。また、本学のPR及び今後の広報で活用するためのアンケートを併せて実施した。

②赤松林太郎特任准教授によるオンライン公開レッスンを実施した。累計視聴者数は1500人を超え、同特任准

教授のレッスンを通じて、本学の魅力と指導力を伝えることができた。同レッスンの受講生は、2021年度の入学希望者選抜において本学を志願した。

③ 遠方の楽器店と提携し、公開マスタークラス&ミニコンサートを5回実施した。聴講者は累計で100人を超え、本学の教育の一端を示すことができた。また、小・中・高校生を対象としたレッスンは累計38人が受講し、そのうち4人が本学を志願した。

●今後の展望

2021年度においても、以下を実施する予定である。

- 1) 著名なピアニストをゲスト講師として招聘
- 2) 赤松林太郎特任准教授に加え、田村響特任講師による公開レッスンの実施
- 3) これまで開催に協力いただいた楽器店に留まらず、新たな楽器店との連携によるイベントの実施

上記を例とする催しを継続することによって、ピアノ専攻・コースの一層の周知を行う。また、入学希望者の志望度をより高めるとともに、潜在的な志願者層の拡大を図る。

ポピュラー・ミュージック・フェスティバル

●要旨

8月7日に大学ポピュラーインストゥルメント専攻・ヴォーカルパフォーマンス専攻の新規開設、並びに同専攻及び短大の同コースの認知度向上のため、出演希望の高校軽音楽部を各府県から募り、選考を通過した軽音楽部による無観客ライブを実施し、後日映像の配信を行った。

●成果及び達成度

コロナ禍によって無観客での実施となったため、当日は参加校のみの来場となった。参加校同士の接触を避け、ステージにもアクリル板を設置するなどの感染防止対策を講じ無事終了することができた。これらの対策については、大阪府軽音楽連盟から、今後のイベント実施の参考となる内容であったとの評価を受けた。また、後日、本学の動画チャンネルにて実施内容を配信した結果、900回を超える視聴回数を記録し、本学の認知度の向上を図ることができた。今回の映像を素材とし、他地域の軽音楽連盟とも交流を図り、本学に来校するきっかけとなるイベントとしたい。

●今後の展望

前述の両専攻の新規開設に伴い、2021年度は通常開催であれば例年以上の集客（700人程度）が必須となる。そこで新たにパート別クリニックや、高校から問い合わせのある作曲系のクリニックを実施し、ポピュラー関連専攻・コースの幅広さを周知することで、イベントの発展と志願者の確保を見込めると考える。ただし、今年度のポピュラー・ミュージック・フェスティバルの無観客開催については、直接的に入学志願者の増加に結びつかなかったため、次年度以降、高校生が求める内容と本学が発信する内容とを照らし合わせて検討し、本学に来校するきっかけとなる要素を盛り込んだイベントにする。

第1回 高校生のためのミュージカルワークショップ

●要旨

志願者増加に向けた広報活動として、ミュージカルに興味を持つ高校生を対象に、8月中旬に3日間のワークショップを開催した。受講生にあらかじめ課題を提示し、個人・グループごとに練習を積んだ上での参加を促し、最終日の発表会に向け、演技・ダンス・歌唱の指導をグループに分かれて手厚く行った。この3日間のワークショップを通じて、オープンキャンパスの1日だけではできないミュージカル・コースでの学びの体験を高校生に提供できた。

【参加者数】

個人部門 10人

少人数グループ部門 2組（計5人）

団体部門 1組（大阪成蹊女子高校 音楽コース1年生 53人）

●成果及び達成度

初日と最終日で、受講生本人がその変化に気づくことができるほどに成長を促すことができた。また、最終日の発表会では、在学生の模範演技の鑑賞を通じて、ワークショップ参加者と年齢の近い学生の成長度合いを目の当たりにし、本学で学ぶことに対する意識を高めることができた。ミュージカル初心者を始め、経験者や保護者からも充実した内容との高評価をいただくことができ、志願者増加のための有意義な広報活動とすることができた。

●今後の展望

2021年度のワークショップでは、より充実度の高い内容を検討している。また、将来的には「高校生のためのミュージカル大会」の開催を企図しており、ミュージカル界への進路を考える高校生が目標とする大会に位置づけることで、本コースの知名度の向上が期待される。同時に、実力ある高校生の本学入学への動機付けとしたい。

【2】対社会事業

<エクステンション関連>

8月に開催を予定していた教員免許状更新講習は、新型コロナウイルス感染症の影響によって中止となった。

<社会連携関連>

連携支援センターでは、大学の教育研究活動の成果の一端を地域社会に還元することを目的として、地方自治体・公共団体・自治会・公民館・ボランティア団体・一般企業等、様々な分野の団体と連携を結び、社会貢献活動を実施している。同センターの連携関係事業は、大きく社会学連携事業、公開講座、依頼演奏に分類することができる。

・地域社会との連携

①豊中市の主催で「第6回豊中音楽コンクール」、豊中中央ライオンズクラブの運営資金援助により「市立豊中病院ランチタイムコンサート」、豊中中央ライオンズクラブ・豊中市・豊中市教育委員会との共催で「豊中こども音楽フェスティバル」等を実施に向けて準備していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全て中止となった。

②寝屋川市との包括連携協定に基づき、同市主催事業の「アルカスピアノコンクール」へ審査員紹介を行った。

・公開講座

豊中市、高槻市、羽曳野市等、自治体と連携協力して提携講座の実施や講師派遣等を行った。

①豊中市：中央公民館との共催による大学開放講座「音楽・心の旅」

②高槻市：けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝石箱」

③羽曳野市：はびきの市民大学 講座への講師紹介（2021年度に延期）

・依頼演奏

地方自治体、公共団体、公益法人、ボランティア団体、学校、企業及び個人等から多数の演奏依頼を受け、一定の演奏水準を保ちつつ卒業生支援の一環として、演奏者の手配・派遣・紹介等マネジメント業務を行っている。これは卒業生の活躍の場を確保するとともに、大学の広報活動の一翼を担う事業でもある。また近年は、在生でも特に優秀な個人やグループに演奏を依頼し、実地研修の場として活用している。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によって、既に受け付けていた11件のうち9件が中止となり、残りの2件は延期して実施された。

DAION 座ワークショップ&コンサート&レッスン

●要旨

DAION 座のエントリー俳優が中心となり、外部団体から依頼のあるワークショップやコンサートを実施する。広

く DAION 座の存在を周知し、将来、大阪発の創作ミュージカルを上演する際には、芸術面だけでなく経済的な成功も目指し、本学の名声を高めることにつなげる。上演に備え、講師を招いてエンタリー俳優たちの技術を高めるレッスンを有償で行い、運営費の一部に充当する等、収支バランスを考慮した事業展開を行っている。

●成果及び達成度

新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、2020 年度のコンサートやワークショップ等の開催を中止した。委嘱講師によるレッスンについては 4 月から 8 月まで中止し、9 月に再開して翌年 2 月まで実施した。

●今後の展望

近い将来の DAION 座自主公演の実現に向けた実績を積むため、観客 200 人～300 人規模の公演を行う構想はあるが、コロナ禍によって先が見通せない状況にあり、具体的な計画は立てていない。

ミュージッククリエイション専攻卒業作品発表会

●要旨

ミュージッククリエイション専攻 卒業作品完成披露会「MUSIC CREATION AWARDS 2020」を、2021 年 2 月 11 日（木・祝）にミレニアムホールで開催した。「歌モノ」「インスト」「劇音楽」の中から、学生自身が卒業作品として選択し、制作した「セルフプロデュースアルバム」を披露した。前年度に引き続き審査員長を作曲家の三枝成彰氏に依頼したほか、映画監督やゲーム会社、作家事務所等から審査員を招き、各賞を選出して表彰を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策として入場は事前登録制とするとともに、ライブ配信によるオンラインイベント公演として実施した。

●成果及び達成度

ミュージッククリエイション専攻 2 期生 13 人が「セルフプロデュースアルバム」を披露し、審査の上各賞の表彰を行った。また、表彰終了後、学生と審査員・外部ゲストとの交流会を A301 教室で行い、親睦を深めた。

●今後の展望

次代を担う若き音楽クリエイターの存在と活躍を社会に広く発信し、卒業後の音楽活動とキャリア形成を後押しする。

サウンドスクール

●要旨

サウンドスクール事業は、豊中市との包括連携協定に基づき、豊中市教育委員会と連携して「音楽あふれる学校園づくり」をテーマに、2006 年度から事業を展開している。通常であれば、豊中市立のこども園・小学校・中学校へ、授業支援、出張演奏、クラブ活動支援、伝統音楽の普及といった活動を実施しているが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、飛沫の恐れのない演奏編成に限定して授業支援と出張演奏を 34 件（こども園 13 件、小学校 18 件、中学校 3 件）実施し、延べ 226 人の学生（卒業生・教員・演奏員を含む）を教育現場へ派遣した。

●成果及び達成度

例年であれば 6 月下旬からの実施となるが、2020 年度は豊中市教育委員会と協議し、サウンドスクールのコロナ感染防止対策ガイドライン策定後の 10 月から 3 月まで実施した。弦楽四重奏、ピアノ独奏、邦楽アンサンブル（箏、三味線）に限定しての実施となったが、コロナ禍で生の音楽を聴く機会が減少していたこどもたちに生きた演奏を届けることができ、児童、生徒、教職員ともに好評だった。特に初めて導入されたピアノ独奏については、次年度も引き続き実施してほしいとの声が寄せられるほど高い評価を得ることができた。

●今後の展望

コロナ禍ということもあり応募件数が減少したが、実施した学校からの肯定的な意見を未実施校へ伝え、安全に

実施できることを周知し、児童生徒の情操教育の一助となるべく実施校の拡大を図りたい。

豊中子ども音楽フェスティバル

●要旨

豊中中央ライオンズクラブ、豊中市、豊中市教育委員会と連携協力し、音楽を通じて子どもたちの感性を育むことを目的に毎年実施してきたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。

●成果及び達成度

政府や自治体による部活動等の制限、自粛要請を受けて出演校の活動が難しくなり、また、2020年5月10日に「全日本吹奏楽コンクール」の中止が決定されたことを受け、豊中子ども音楽フェスティバルについて中止を決定した。

●今後の展望

次年度以降は今後の吹奏楽界の動向を見ながら、文化芸術活動に取り組む子どもたちの発表の場として、子どもたちの目標となる演奏会を目指し、また、舞台芸術の鑑賞の機会として浸透するよう運営する。

第6回豊中音楽コンクール

●要旨

豊中音楽コンクールは、2015年度から豊中市と共催で、2019年度からは豊中市主催として、「次代を担う優れた演奏家を発掘・育成し、音楽文化の振興を図ることを目的」として設立されたクラシック音楽コンクールで、本学は2019年度より運営を委託されている。学内施設で6月6日(土)・7日(日)に予選、6月21日(日)にザ・カレッジ・オペラハウスで本選を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため次年度へ延期とした。

●成果及び達成度

4月7日に発令された緊急事態宣言並びに新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る政府及び大阪府発表の方針に従い、「第6回豊中音楽コンクール」及び10月に開催を予定していた「第6回豊中音楽コンクール受賞者記念コンサート」について、4月8日に次年度への延期を決定した。

●今後の展望

同コンクールは、豊中市主催のもと、2021年6月5日(土)・6日(日)に予選、6月20日(日)に本選を開催することが決定している。審査員は学外の著名な演奏家の方々にも依頼することができたため、全国的な音楽コンクールとしてさらに発展できるものとする。感染拡大防止対策を実施し、安全な運営に努める。

【3】オペラハウス事業

本格的なオペラ公演のできるホールとして建設されたザ・カレッジ・オペラハウスは、「新音楽、新歌劇ノ発生地タラン」という建学の精神に謳われている創立者の大志を実現すべく、これまで多数のオペラ公演を行い、関西、否、日本有数のオペラ発生地として、文化庁芸術祭において「芸術祭大賞」を3度受賞したのを始め、モービル音楽賞(現、ENEOS音楽賞)の本賞や三菱UFJ信託音楽賞の本賞を受賞するなど、創立者の夢を着々と実現するとともに、社会からも高い評価を得てきた。

本学の創立100周年目に当たる2015年度に、「創立100周年記念オペラ」と銘打って、ヴェルディ唯一の喜劇作品とも言えるオペラ「ファルスタッフ」を上演した。これを契機にオペラハウス主催オペラ公演の在り方を見直すため、2016年度は公演を休止し、以降の公演計画について検討する年度とした。その結果2017年度からは、井原広樹、栗國淳、岩田達宗の3人の客員教授が交代で演出を担当する3年度にわたる「ディレクターズチョイス」シリーズとして主催オペラ公演を行うことを決定した。2017年度は井原広樹演出、牧村邦彦指揮でモーツァルトの《偽の女庭師》を上演、2018年度は栗國淳演出、森香織指揮でメノッティの《テレフォン》《泥棒とオールドミス》

を上演、そして、同シリーズの掉尾を飾る 2019 年度は岩田達宗演出、牧村邦彦指揮でベッリーニの《カプレーティとモンテッキ》を上演し、いずれも高い評価を得た。2020 年度は国が掲げる「日本博」の趣旨に則り、日本をテーマとした作品として 2014 年に上演して文化庁芸術祭で「芸術祭大賞」を受賞した「鬼娘恋首引」と「カーリユー・リヴァー」の 2 作品を井原広樹演出、牧村邦彦指揮でキャストや演出の一部に手を入れて上演する予定であったが、2020 年から全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響で中止となった。

ザ・カレッジ・オペラハウスは教育、研究の成果発表の場として、また学校法人として様々な催事の会場として広い用途にも活用されている。折しも、2020 年度は天井耐震対策改修工事のため 4 月～10 月まで約 7 か月間にわたりホールを閉鎖した関係で催事が制限されたが、11 月以降は例年に増して公演等が（感染防止策を徹底し、入場者数も 50 パーセント以内として）開催された。大学主催演奏会として 12 公演（19 件）開催し、2,881 人が入場した。また、学生の自主公演や授業の延長上にあるコンサート等を 8 公演開催し、1,877 人が入場した。さらに、クラシック系の専攻・コースで学ぶ学生は、卒業実技試験の際、原則的にこの舞台で演奏の機会を持つことになっており、2020 年度は 28 回に及ぶ卒業・修了演奏が実施され 1,110 人が入場した。

その他にも、付属幼稚園の公演が 1 回行われ 636 人の入場者を得た。また、コロナ禍で多くの催事が中止又はオンライン開催となったため、共催（協賛）事業については、例年になく少なく 1 件のみであった。これらの結果、卒業式を含め年間催事総数は 60 件、総入場者数は 7,042 人、総稼働日数は 214 日（うち、保守・工事のみ 102 日）となった。

パンデミックの発表（2020 年 3 月 11 日・WHO）がされた新型コロナウイルスの感染拡大の中、入学式を始め多くの催事が中止、延期された。本学は、9 月にオゾンによるウイルス除菌・滅菌の機器を購入しホールに配備した。その後毎公演終了後に機器を作動させ、ホール利用者の安全・安心に配慮している。

専属のザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団は、京阪神地域を中心に 4 件 5 回の依頼演奏を実施し、特に様々な団体のオペラ公演には欠かせない存在になっている。2020 年度には、文化庁「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」及び「子供のための文化芸術体験機会の創出事業」を担い、愛知、岐阜、静岡、神奈川、大阪、兵庫、沖縄の 6 県 1 府で巡回公演及び創出事業を実施し、ワークショップや演奏会を計 14 回開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により中止を決定された学校があったが、巡回公演等の実施は本学の名を広く中部地方や東海地方にも知らしめることとなった。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第 58 回定期演奏会

●要旨

学校法人主催によるザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団単独のステージコンサートを開催した。

2020 年 12 月 19 日（土）18 時開演

会場：ザ・カレッジ・オペラハウス

指揮：牧村 邦彦

独奏：河島 利香

曲目：R. ワーグナー ジークフリート牧歌

M. ラヴェル ピアノ協奏曲 ト長調

PI. チャイコフスキー 交響曲第 6 番 ロ短調作品 74「悲愴」

●成果及び達成度

本演奏会は演奏曲目に協奏曲を取り上げ、独奏者として大学院生の中からオーディションによって選出された優秀な学生を出演させることで、大学院教育の充実に貢献している。また、プロオーケストラ奏者養成機関の性格も併せ持つオーケストラとして、コアメンバー（本学卒業生のオーディション合格者）にステージ上での演奏機会を与えることによって、重要な研修の場を設定することができた。今年度は、新型コロナウイルス感染症防止対策の

一環として、入場者総数を定員の 50 パーセントに設定して入場チケットを発券したところ、70 パーセントの設定入場者数の達成率であった。

●今後の展望

今後もコアメンバーに対し、主催演奏会への出演機会を増やし、多くの曲目経験を積ませることで、メジャーオーケストラの採用オーディションに合格できる実力を養成することや、オーディションを通過した優秀な大学院生にオーケストラ伴奏での協奏曲演奏の経験を積ませる機会とする。また、オペラハウス管弦楽団の特色を反映したプログラム作りに努めていく。

オペラハウス管弦楽団出張演奏

●要旨

オペラ制作団体等の外部団体からの依頼を受けて出張演奏を実施し、収益事業としている。

●成果及び達成度

依頼演奏は、学校法人の広報活動の一端も担っている重要な業務との認識を持ち依頼主に対応している。今年度は、4 公演のオペラの依頼演奏があったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって 3 公演が中止となった。下記公演については、感染防止対策について主催者側と打ち合わせを重ねた上で開催することができた。

10 月 10 日、11 日 第 29 回みつなかオペラ／景山伸夫「満仲～美女丸の廻心」

11 月 14 日 特別公演 本山秀毅×びわ湖ホール声楽アンサンブル／バッハ「マタイ受難曲」

11 月 22 日 第 30 回紫式部文学賞・紫式部市民文学賞贈呈式及び源氏ろまん 30 周年記念イベント

2021 年 3 月 21 日 グリーンホール フェアウェル・コンサート

●今後の展望

新型コロナウイルス感染症の影響によって大きく冷え込んだ全国的な経済状況から、依頼件数は減少すると思われるが、オペラ公演等において演奏の質を一層高めることで、より多くの依頼演奏を受けられるよう努める。

文化庁巡回公演事業

●要旨

「文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）」(①)、「子供のための文化芸術体験機会の創出事業（国の 2020 年度補正予算の決定を受けて年度途中で文化庁が新たに立ち上げた新規事業）」(②) は、小学校・中学校において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子どもたちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としている。学校法人大阪音楽大学自らが制作団体となり、公演団体をザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団として 2010 年度から実施している。

●成果及び達成度

2020 年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の影響で、全 15 公演中 10 公演の開催となり、①の事業 5 公演、②の事業 5 公演、中止が 5 公演であった。また、ワークショップは全ての開催予定校で実施するのが原則であったが、感染予防の理由から実施は 4 校に留まり、その他の開催予定校は下見及び打ち合わせのみとなった。

●今後の展望

2021 年度は、過年度と同様の編成で実施する A 区分と、僻地や離島で開催するのに適した少人数編成のオーケストラで実施する C 区分の 2 区分を申請し採択を受けた。開催回数が倍増することによりコアメンバーの研修機会の増加につながるため、2022 年度以降も継続して 2 区分の採択を受けることができるよう良い実績を残す努力をする。

オペラハウス合唱団出張演奏

●要旨

外部団体等から依頼を受けて、ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団が出張演奏を実施している。

●成果及び達成度

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、2020年度については出張演奏の依頼を受けることができなかった。

●今後の展望

公演の種類を問わず多くの依頼を受けることにより、オペラハウス専属の合唱団としての実力を示し、実績を積み上げるよう努めたい。

オペラ公演

●要旨

2020年に国が掲げる「日本博」の趣旨に則り、日本の伝統芸能である狂言と能を元にした「鬼娘恋首引」と「カーリュー・リヴァー」の二つの作品を上演する予定であった。この2作品は2014年に上演し、文化庁芸術祭で「芸術祭大賞」を受賞した作品で、キャストや演出などに手を入れて再演企画を立てて鋭意準備を進め、6月から音楽稽古を開始する予定であったが、2020年2月から日本でも新型コロナウイルスの感染が拡大し緊急事態宣言が発出され、大学も休講を余儀なくされる中、学生支援を第一として、大学施設の利用及び経費的観点から公演の中止を決定した。

●成果及び達成度

公演中止の決定後2週間弱の期間で、関係者・関係企業への周知等の対応を完了することができた（計74件）。

決定を受けていた助成金については辞退せざるを得なくなったが、1団体からはキャンセル経費への助成申請を、2団体からは2021年度のオペラ公演への保留・充当を勧められ、受諾することとした。最終的には2021年度のオペラ公演開催が見送られることが決定したため、全ての助成団体に対して助成金を辞退することとなったが、1団体（花王芸術・科学財団）については、オペラ・ガラ公演をプログラムに組み込んだオペラハウス管弦楽団定期演奏会への助成金の充当を勧められ受けることとした。

今回のコロナ禍において芸術・文化活動が受けた影響の大きさと危機感には計り知れないものがあるが、コロナ禍に協調して対応する演奏団体や助成団体等の姿勢を感じられたことは収穫であった。

●今後の展望

新型コロナウイルス感染症の第4波が迫り、財政的にも厳しい中ではあるが、これまでザ・カレッジ・オペラハウスが培ってきた経験等を活かして、コロナと共生する社会の中で上演できるオペラの形態を模索し、大阪音楽大学のオペラの灯を消すことなく継続していきたい。大学という教育機関として意義ある作品を第一に考え、今後のオペラ鑑賞人口を広げるためにも、高校生など若年層がオペラ入門として鑑賞してもらえるような工夫も重ねる必要がある。

●公的助成・民間助成について

本公演中止に当たり、次の団体からキャンセル経費負担に対する助成金を受けた。

- ・独立行政法人 日本芸術文化振興会（承認総経費の1/2以下の助成）

また、次の2団体からは助成決定額の2021年度公演への充当提案を受けたものの、2021年度オペラ公演の開催が見送られたため助成金を辞退することとなった。ただし、1団体については2021年度実施予定のザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団定期演奏会（オペラ・ガラ公演を組み込む）への助成金充当を提案され受け入れることとした。

- ・公益財団法人 花王芸術・科学財団

⇒2021年11月1日（月）ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第59回定期演奏会に充当

- ・公益財団法人 朝日新聞文化財団
⇒助成金辞退

【4】 付属音楽院

付属音楽院は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年3月から9月まで休校した。再開後10月の受講者数は、進学コースを除き、教養、キッズ・ジュニア、マンツーマンレッスンの各コースとも前年度同月比で約40パーセント減となったが、2021年3月末には教養、キッズ・ジュニアコースの受講者数は前年度同月比20パーセント減まで回復し、マンツーマンレッスンの受講者数はほぼ同水準に戻った。休校期間中、希望する受講者に対しオンラインでのレッスンを実施したが、映像と音声の質などに限界があり、受講者の満足度の維持・向上につなげられなかった。

感染症対策の一環として、歌唱系グループレッスンでは受講者数を10人以下に設定し、また、講座の見学、レッスンの参観、保護者の付添いには人数制限などの条件を付して認めることとした。ジュニアオーケストラを立ち上げる計画は2021年度に延期した。

進学コースの在籍者数は計15人であり、2021年4月に6人が本学（大学・短大）へ進学した。新型コロナウイルス感染症の影響による受講者数は微減であった。

レッスンや講座の実施に当たっては、今後も引き続き受講者や講師等の協力を得て感染防止対策を徹底する。また、入試事務部門とのさらなる連携強化に努める。

さくら夙川校は、受講者数の減少に加え、感染症対策を講じてのレッスンの実施が難しいことから運営継続は困難と判断し、2020年12月25日をもって閉校した。

進学コース充実、改革のための事業

●要旨

2016年度に着手した進学コース改革を継続し、進学コース特典（入学お祝い金、音楽院賞の贈呈）を実施した。

●成果及び達成度

進学コースのカリキュラムを通じて音楽基礎科目の知識・能力を着実に身に付けようとする受講者の割合は多く、大学入学後の円滑な学修の開始につながっている。

●今後の展望

進学コースでは、新たな入学者選抜制度に関する説明を含め、より適切で丁寧な対応に努める。このため、これまで以上に入試事務部門との連携を深め、新規事業等に関する相談や情報交換を綿密に行い、受講者サービスを徹底していく。また、大学・短大の各部会とも連携を図り、未来の音楽家の育成に力を注ぐ。

こども音楽コースの新規会員数拡充・定着向上のための事業

●要旨

標記事業及びその一環として2020年4月11日に、こども音楽コース春の無料体験を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。中学生以下の受講者による発表会「ミュージックカーニバル」については、2021年3月13日、14日、20日の3日間に分けて実施した。

●成果及び達成度

ミュージックカーニバルの出演者の区分は次のとおりである。

3月13日 グループレッスンの受講者

3月14日 キッズレッスン（ピアノ・マリンバ）及びマンツーマンレッスン（ハーブ・チェロ・ヴァイオリン・声楽・ピアノ）の受講者

3月20日 キッズレッスン（ヴァイオリン・チェロ）及びマンツーマンレッスン（ヴァイオリン・ピアノ）の受講者

●今後の展望

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で無料体験会の中止や休校等を余儀なくされ、講座やレッスンが従来どおり実施できず、受講者の満足度が低下した。2021年度は「ジュニアオーケストラ」及び「ザ・カレッジ・オペラハウス少年少女合唱団」の開設、演奏家のための特別クラスや各専攻のマスタークラスの実施など、感染症対策を十分に講じながら積極的に取り組み、音楽を学ぶ楽しさを提供しつつ、未来の音楽家の育成を目指す。

外部施設（さくら夙川校）を活用した事業

●要旨

「すべての人に音楽を学ぶ楽しさを」を理念に2017年7月に開校した音楽院さくら夙川校は4年目を迎えたが、新型コロナウイルス感染症の影響で受講者数は大きく減少した。また、室内換気による感染防止対策の観点からユニットタイプの防音室が使用できず、サロンでのレッスン実施となり、回数も制限された。このため、今後の運営継続は困難であると判断し、2020年12月25日をもって同校を閉校した。

2020年度に実施した主な催事は、12月6日の「木田雅子ヴァイオリンリサイタル」（当初、4月26日実施予定であったが新型コロナウイルス感染症の影響により延期し、ライブ配信によって実施）、12月20日の「音楽院からのクリスマスプレゼント」（ライブ配信コンサート）、12月26日及び27日の「受講生のための発表会」であった。

●成果及び達成度

コロナ禍における受講者の気持ちを和らげるため上記のライブ配信を無料で実施し、視聴者数は平均250人であった。「受講生のための発表会」については、さくら夙川校閉校後の実施となったが、成果発表の場を設けることによって閉校への謝意を表した。

C 法人組織運営事業

【1】広報活動

2020年度も本学の取組に関する効果的な情報発信を目指し、時代に合わせた各種媒体・機会の活用による広報展開の強化を図った。

本法人ホームページやSNSでは、視覚に訴えるべく動画や写真を積極的に活用した。2022年度に大学に新設されるミュージックビジネス専攻、並びに2021年度に大学に開設されるヴォーカルパフォーマンス専攻及びポピュラーインストゥルメント専攻を中心に各専攻・コースの魅力と教育的特徴をWebによる動画配信などを通じて広く社会にアピールした。

広告においては、ターゲットやエリアを絞ったWeb広告を活用するなど、時代に合わせた広報展開を行った。

その他、広報誌・リーフレット・チラシなどの紙媒体の配布、商業施設におけるイベントへの出演、マスメディアへの掲載・発表など各種媒体、機会の活用により、本学の社会的な認知度と好感度の向上を図り、ブランド力の強化に努めた。

「大学ブランド力」強化を目的とした広報活動について

●要旨

本学・各専攻・コースの認知度及び好感度の醸成を図る広報活動を通じ、建学の精神及び教育理念等を社会に発信し、本学の存在感を高めブランド力強化に結び付ける。

●成果及び達成度

前年度に引き続き、広報媒体や宣伝機会ごとの特性や長所を活かし多層的な情報発信に努めた。特に、2020年度

はコロナ禍の影響により、イベント出演やコンクール等での広告機会が減少したが、デジタル化が進む中で Web 媒体を積極的に活用し、本法人ホームページへの流入数を伸ばすことができた。また、2022 年度開設の大学ミュージックビジネス専攻の広報の効果として、本学（大学・短大）の改革が新聞に掲載され、歴史と伝統を受け継ぎながら、時代対応した教育を推進する本学の姿勢を広く社会に印象付けることができた。

●今後の展望

様々な機会や広報媒体を活用して、本学の新たな取組及び各専攻・コースや教員の魅力を社会に発信し、創立以来 100 年を超える歴史と伝統の上に新たな大学・短大のブランドを構築し、入試広報にもつなげていくものとする。

【2】施設・設備

事業計画に基づき、既存施設・設備のリニューアル工事を行い、教育環境の充実に努めた。また、学内での感染予防を目的とした新型コロナウイルス感染症防止対策を実施した。

新型コロナウイルス感染症対策

●要旨

世界的に蔓延している新型コロナウイルスに対し、対面授業の再開及び継続的な実施に向け、学内での感染予防を目的とした対策を実施した。

●成果及び達成度

全学共通の対策に加え、各専攻・コースの特性に応じた対策を講じることで学内での感染を抑え、円滑な授業運営に資するための予防策を実施した。主な対策は次のとおり。

- ・教室、レッスン室等への飛沫感染防止パネルの設置
- ・各館等へのアルコール消毒液の設置
- ・授業・練習時における次亜塩素酸水を用いた消毒
- ・キャンパス内における手すり、ドアノブ等の次亜塩素酸ナトリウムを用いた定期的な消毒
- ・洗面所への薬用ハンドソープの設置
- ・大教室等でのオゾン発生装置（オラクリン）を用いた空間消毒

●今後の展望

新型コロナウイルス感染症が収束するまで随時必要な対策を継続して講ずる。

既存施設設備のリニューアル工事

●要旨

耐震対策及び経年劣化対策工事を行うことで、既存施設設備の維持・保全を図った。

●成果及び達成度

授業を実施していない期間を利用し、主に次の各種施設設備におけるリニューアル工事等を実施した。

- ・A 号館電話交換機（PBX）の更新
- ・F 号館 511 教室の電子ピアノ更新
- ・H 号館低圧架空引込ケーブルの更新
- ・K 号館 419 教室の作曲デザインレッスン室増設、806 教室の録音ブース機材更新
- ・L 号館（オペラハウス）天井耐震改修工事
- ・P 号館空調設備の更新
- ・幼稚園電話交換機（PBX）の更新
- ・豊南寮トイレ、サイクルポート（駐輪場）の更新

●今後の展望

中長期的な保全計画を立てて財政負担の平準化を図りつつ、施設設備の維持・保全及び教育環境の整備に努める。

図書館システムの継続利用について

●要旨

OSのサポートサービス終了によるセキュリティ対策と動作不具合による業務停止を防ぐ。また、CAT2020（2020年以降の目録所在情報システム）とマイメニュー機能を導入し教職員・学生の操作性・利便性を向上させる。

●成果及び達成度

OS・ソフトウェアのバージョンアップと常時SSL化（暗号化）で、セキュリティ面が向上した。

CAT2020の導入で、関連書誌やBC書誌、プレブック等の検索機能と操作性が向上し、目録業務の効率化にもつながった。

マイメニュー機能導入により、貸出履歴を個人ごとに把握できるためカウンター業務が軽減された。また、個人別に貸出期間が確認できるので延滞の抑制効果があった。

●今後の展望

ポータルシステムの利便性向上と基幹システムの更新を検討する。

【3】法人の運営

18歳人口の減少とクラシック離れという社会環境を踏まえ、新規事業として新たな専攻・コースの設置を理事長の指示の下、新規事業開発チームを中心に検討を重ねた。その結果、音楽業界への就職や起業を視野に入れ、音楽ビジネスを中心に学ぶ「ミュージックビジネス専攻」を2022年度に新設することを常任理事会にて決定し、理事会において音楽学部 音楽学科内の開設を決議した。これを受け、同分野に精通する教員陣及びカリキュラムを整備し、開設への体制を整えた。

本学ホール「ザ・カレッジ・オペラハウス」では、2011年の東日本大震災の被害状況を受け文部科学省が学校施設の天井等の落下防止対策を推進することに合わせ、前期期間中の同ホールにおける催事を中止し、天井耐震工事を行った。

今年度は理事会を4回、評議員会を3回開催した。理事会において決定した学校法人の業務及び理事長の職務を円滑に遂行するために、常任理事会を27回開催し、延べ182件の議題を審議した。役員及び役職者等の意思疎通と連絡調整を目的とする執行部連絡協議会を3回開催した。

今年度の教職員の総数は630人（平均年齢49.5歳）であった。内訳は、専任教員は64人〔大学・短大52人（平均年齢55.9歳）、附属音楽幼稚園教諭12人（平均年齢33.2歳）〕、専任職員74人（平均年齢40.8歳）、非常勤教員459人（平均年齢50.8歳）、非常勤職員34人（平均年齢47.2歳）であり、このうち1人が専任職員と非常勤教員の兼務者であった。年度中に52人（専任教員2人、専任教諭2人、専任職員1人、非常勤教員39人、その他8人）が退職した。

新たな専攻・コース設立実現に向けた事業運営

●要旨

2022年度に大学 音楽学部 音楽学科に「ミュージックビジネス専攻」を新設することが教授会及び理事会の審議を経て正式に決定した。

これを受け、同専攻の教育体制を整えるため、学長及び学務事務部門職員が主要授業科目の担当予定教員と定期的に会合を開いて、カリキュラムの細部を検討し、教育理念・教育目標との整合性及び学年進捗と授業科目の関係性等について綿密に調整を行った。

●成果及び達成度

「ミュージックビジネス専攻」のカリキュラム構築、教員配置、専用教室の候補選定など、開設に向け具体的な検討に着手した。早期に志願者層への周知を高めるため、同専攻の教員と入試事務部門が連携して、イベントや広報の内容・方法について検討を重ね、実施した。

●今後の展望

「ミュージックビジネス専攻」の教育内容と特色が、より明確で分かりやすい広報となるよう工夫し、志願者層の拡大を図る。また、開設に向けた体制・環境整備を本格化する。

Ⅲ 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:千円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
固定資産	17,207,612	17,329,707	16,814,352	16,261,224	15,137,731
流動資産	932,263	834,570	605,998	608,269	1,213,610
資産の部合計	18,139,875	18,164,277	17,420,351	16,869,493	16,351,342
固定負債	2,937,984	2,776,351	2,592,928	2,436,645	2,278,230
流動負債	454,894	269,140	255,918	257,995	254,897
負債の部合計	3,392,878	3,045,491	2,848,847	2,694,640	2,533,127
基本金	18,570,755	17,781,667	17,880,179	17,974,228	17,939,597
繰越収支差額	-3,823,758	-2,662,881	-3,308,675	-3,799,376	-4,121,383
純資産の部合計	14,746,997	15,118,785	14,571,504	14,174,852	13,818,215
負債及び純資産の部合計	18,139,875	18,164,276	17,420,351	16,869,493	16,351,342

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 財務比率の経年比較

(単位:千円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	94.9	95.4	96.5	96.4	92.6
固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標。						
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	204.9	310.1	236.8	235.8	476.1
流動負債に対する流動資産の割合。学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する指標。						
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	18.7	16.8	16.4	16.0	15.5
固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する比率。						
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	206.1	712.4	625.2	573.3	1370.0
前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率。						
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	20.1	30.3	28.5	27.2	25.7
特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況を評価する指標。						

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学生生徒等納付金収入	2,081,524	2,065,766	2,104,847	2,182,814	2,150,453
手数料収入	18,309	17,809	16,791	17,166	16,205
寄付金収入	78,780	36	11,496	11,000	110
補助金収入	355,167	278,465	302,423	206,354	220,713
資産売却収入	191,910	2,603,488	233,734	103,623	479,927
付随事業・収益事業収入	149,154	164,352	170,519	170,080	111,234
受取利息・配当金収入	122,978	189,024	140,263	108,794	91,696
雑収入	281,286	163,329	207,975	237,479	171,009
借入金等収入	880,000	0	0	0	0
前受金収入	91,860	92,130	84,880	89,060	82,660
その他の収入	1,050,170	739,567	854,411	2,178,801	1,104,863
資金収入調整勘定	-358,075	-378,600	-159,407	-177,209	-157,170
前年度繰越支払資金	1,525,701	654,095	656,320	530,632	510,584
収入の部合計	6,468,764	6,589,461	4,624,252	5,658,593	4,782,283

支出の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
人件費支出	1,761,546	1,746,912	1,834,563	1,836,605	1,728,513
教育研究経費支出	688,931	809,868	674,011	731,694	786,615
管理経費支出	286,512	331,641	334,156	332,065	297,659
借入金等利息支出	2,263	3,664	3,472	6,227	5,701
借入金等返済支出	54,760	59,720	98,220	100,720	98,220
施設関係支出	1,649,413	232,044	290,847	116,463	85,109
設備関係支出	151,042	79,499	92,934	100,501	42,677
資産運用支出	688,166	2,204,861	292,833	1,416,222	112,990
その他の支出	568,304	514,122	509,511	549,575	533,523
資金支出調整勘定	-36,268	-49,190	-36,927	-42,062	-41,179
翌年度繰越支払資金	654,095	656,320	530,632	510,584	1,132,455
支出の部合計	6,468,764	6,589,461	4,624,252	5,658,593	4,782,283

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,773,563	2,654,281	2,779,461	2,824,371	2,641,403
教育活動資金支出計	2,736,990	2,888,421	2,842,730	2,900,364	2,812,786
差引	36,573	-234,140	-63,269	-75,993	-171,383
調整勘定等	156,783	18,536	-58,322	-12,912	45,983
教育活動資金収支差額	193,356	-215,604	-121,591	-88,904	-125,400
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	208,731	2,294,056	201,088	520,080	141,343
施設整備等活動資金支出計	1,917,168	311,543	383,782	566,939	227,786
差引	-1,708,437	1,982,513	-182,694	-46,859	-86,443
調整勘定等	-76,159	-29,175	34,900	0	-35,060
施設整備等活動資金収支差額	-1,784,596	1,953,338	-147,794	-46,859	-121,503
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	-1,591,239	1,737,734	-269,385	-135,763	-246,903
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,870,337	1,006,124	1,000,671	1,804,382	1,471,133
その他の活動資金支出計	1,150,704	2,741,633	856,704	1,688,215	601,933
差引	719,633	-1,735,509	143,967	116,167	869,200
調整勘定等	0	0	-270	-451	-426
その他の活動資金収支差額	719,633	-1,735,509	143,697	115,716	868,774
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	-871,606	2,225	-125,688	-20,047	621,871
前年度繰越支払資金	1,525,701	654,095	656,320	530,632	510,584
翌年度繰越支払資金	654,095	656,320	530,632	510,584	1,132,455

ウ) 財務比率の経年比較

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
教育活動資金 収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	7.0	-8.1	-4.4	-3.1	-4.7

教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率。

③ 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

	科目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,081,524	2,065,766	2,104,847	2,182,814	2,150,453
	手数料	18,309	17,809	16,791	17,166	16,205
	寄付金	3,000	424	11,497	11,000	110
	経常費等補助金	240,289	243,025	267,832	205,832	194,078
	付随事業収入	149,154	164,352	170,519	170,080	111,234
	雑収入	281,287	163,329	207,975	237,479	169,323
	教育活動収入計	2,773,563	2,654,705	2,779,461	2,824,371	2,641,403
	事業活動支出の部					
	人件費	1,686,841	1,680,999	1,751,860	1,778,542	1,668,317
	教育研究経費	929,333	1,098,108	972,436	1,039,590	1,095,964
	管理経費	318,742	356,967	357,331	362,154	334,801
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	2,934,916	3,136,074	3,081,627	3,180,286	3,099,082
教育活動収支差額	-161,353	-481,369	-302,166	-355,915	-457,679	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	122,978	189,024	140,264	108,794	91,696
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	1,686
	教育活動外収入計	122,978	189,024	140,264	108,794	93,381
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	2,263	3,664	3,472	6,227	5,701
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	2,263	3,664	3,472	6,227	5,701
	教育活動外収支差額	120,715	185,360	136,792	102,567	87,680
	経常収支差額	-40,638	-296,009	-165,374	-253,348	-369,999
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	45,655	1,439,327	124,278	37,210	60,229
	その他の特別収入	195,411	36,972	38,367	36,374	34,254
	特別収入計	241,066	1,476,299	162,645	73,584	94,483
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	80,328	808,502	544,552	216,887	80,694
	その他の特別支出	0	0	0	0	427
	特別支出計	80,328	808,502	544,552	216,887	81,121
	特別収支差額	160,738	667,797	-381,907	-143,303	13,361
	基本金組入前当年度収支差額	120,100	371,788	-547,282	-396,651	-356,638
基本金組入額合計	-61,483	0	-98,512	-94,049	0	
当年度収支差額	58,617	371,788	-645,794	-490,701	-356,638	
前年度繰越収支差額	-4,034,375	-3,823,758	-2,662,882	-3,308,675	-3,799,376	
基本金取崩額	152,000	789,088	0	0	34,631	
翌年度繰越収支差額	-3,823,758	-2,662,882	-3,308,675	-3,799,376	-4,121,383	
(参考)						
事業活動収入計	3,137,607	4,320,028	3,082,369	3,006,749	2,829,267	
事業活動支出計	3,017,507	3,948,240	3,629,651	3,403,400	3,185,905	

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ)財務比率の経年比較

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	71.9	72.6	72.1	74.4	78.6
学生生徒等納付金の経常収入に占める割合。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の帰属収入の中で最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることが少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。						
人件費比率	人件費 経常収入	58.2	59.1	60.0	60.6	61.0
人件費の経常収入に占める割合。						
教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	32.1	38.6	33.3	35.4	40.0
教育研究経費の経常収入に占める割合。教育研究経費には消耗品費、光熱水費、旅費交通費、委託費、修繕費等の各種支出に加え教育研究用固定資産に係る減価償却額が含まれている。						
管理経費比率	管理経費 経常収入	11.0	12.6	12.2	12.3	12.2
経常収入に対する管理経費の占める割合。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。						
補助金比率	補助金 事業活動収入	11.3	6.4	9.8	6.9	7.8
国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合。 補助金:経常費等補助金+施設設備補助金						

(2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

資金収入の合計は 4,782,283 千円で、主な科目の内訳は、学生生徒等納付金収入 2,150,453 千円、補助金収入 220,713 千円、付随事業・収益事業収入 111,234 千円、前受金収入 82,660 千円である。資金支出の合計は 4,782,283 千円で、主な科目の内訳は、人件費支出 1,728,513 千円、教育研究経費支出 786,615 千円、管理経費支出 297,659 千円、資産運用支出 112,990 千円である。2020 年度の翌年度繰越支払資金は 1,132,455 千円となり、前年度繰越支払資金より 621,871 千円増加した。

教育活動収入計は本業である教育活動に係る収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入の合計で 2,641,403 千円であり、学生生徒等納付金比率は 78.6 パーセントとなる。教育活動支出計は人件費（退職給与引当金繰入額を含む）、教育研究経費（減価償却額を含む）、管理経費（減価償却額を含む）等の合計で、3,099,082 千円であり、人件費比率は 61.0 パーセントとなる。教育活動支出計が教育活動収入計を上回った結果、教育活動収支差額が 457,679 千円の支出超過、教育活動外収支差額は 87,680 千円の収入超過、経常収支差額は 369,999 千円の支出超過となった。特別収支差額は 13,361 千円の収入超過となり、基本金組入前当年度収支差額は 356,638 千円の支出超過となった。前年度までの支出超過累積額 3,799,376 千円を差し引きし、老朽化及び不要となった施設設備等の取り崩し額が施設設備の改修等による組入額を上回った結果、基本金の取崩 34,631 千円となり、翌年度繰越収支差額は 4,121,383 千円の支出超過となった。

貸借対照表上の 2021 年 3 月 31 日における財政状態は、資産 16,351 百万円、負債 2,533 百万円となっている。

(詳細については 2020 年度決算説明を参照)

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策として、遠隔授業の導入を開始した。

これまで、音楽大学特有の対面授業（マンツーマンレッスン）重視の教育環境から遠隔授業にも対応した施設・設備を提供することは容易ではなく、課題の通信環境向上のため、貸出用モバイルルーターの購入や、学生への遠隔授業推進支援金として一律給付を実施、その他教務システムの変更等、当初計画していなかった様々な経費が重なり、大幅な事業計画の見直しを余儀なくされた。当面、コロナ禍の影響は継続するものとして、2021年度には大規模なWi-Fi工事の予算を計上し、学生満足度の高い教育環境整備を推進する。また、この度のコロナ禍は大学運営の在り方を見直す良い機会にもなり、2021年度からの中期計画へ反映した。中でもクラシック系専攻・コース生が減少傾向にあることから、2022年度には大学に音楽ビジネスの新専攻を設置し、収支バランスの改善を図るための準備は大きく進捗した。加えて、2021年度からの5ヵ年計画として財政基盤の安定化を最優先とした中期計画を作成した。これらを実行することで様々な課題解決を図るところである。

▼2020年度 法人の動き

日付	内容	場所等
2020年4月1日	《中止》入学式	-
4月1日	《中止》キャリア支援(進路・就職)に関する新入生保護者対象ガイダンス	-
4月6日	《中止》シブリアン・カツァリス 公開マスタークラス	-
4月10日	教員採用試験説明会【大阪府】	資料・DVD郵送
4月15日	《中止》カワイ音楽教室 講師採用説明会	-
4月16日	教員採用試験説明会【豊能地区】	資料 郵送
4月17日	河合楽器製作所 社員(総合職)採用説明会	WEB配信
4月22日	保育士資格対策講座 [他 4/29、5/13、20、27、6/3、10、17、24、7/1、8、15、22、29] [9/3*、10*、] (計16回)	B号館205教室
4月23日	教員採用試験説明会【大阪市】	資料郵送
4月24日	《中止》名刺講座 [他 年10回 開催予定]	-
4月27日	教員採用試験説明会【堺市】	WEB配信、資料郵送
4月27日	教授会①	会議室
4月28日	教員採用試験説明会【神戸市】	資料・DVD郵送
4月30日	《中止》神戸市 消防音楽隊採用説明会	-
5月1日	大学3年生対象 卒業後のための進路ガイダンス	WEB配信(～5/31)
5月8日	《中止》堺市 消防音楽隊採用説明会	-
5月12日	《中止》東京ディズニーリゾート出演者募集説明会	-
5月14日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー①「就活スタートダッシュ」(マイナビ主催)	WEB配信(～5/31)
5月20日	《中止》ヤマハ大人の音楽レッスン インストラクターズ・セミナー (※コラボレート・スタディ内 他専攻生聴講可)	-
5月25日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー②「業界研究&インターンシップ対策」(あさがく主催)	LIVE配信
5月25日	ヤマハ大人の音楽レッスン講師採用説明会《2020年度秋募集》	WEB配信
5月25日	And Vision主催 音楽留学セミナー [他 5/27、29、8/18、25、9/1、8、15、10/13、20、27、11/4、11/10]	LIVE配信
5月25日	教授会②	会議室
6月5日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー④「就活マナー&インターンシップ対策」(マイナビ主催)	WEB配信(～7/31)
6月22日	MIRAIカフェ②→① 音楽教室講師編「音の絵ピアノ教室 村上那緒さん(大学ピアノ卒)を迎えて」	LIVE配信
6月24日	教員採用試験対策 集団面接・集団討論	会議室
6月25日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー③「SPI性格検査(自己分析)」 (リクナビ主催)	LIVE配信
6月29日	教授会③終了後FDフォーラム	会議室
7月8日	AILI氏 ポピュラー特別講義	K号館507教室
7月10日	《中止》MIRAIカフェ③ 企業編	-
7月20日	教授会④終了後FDフォーラム	会議室
7月22日	陸上自衛隊中部方面音楽隊採用説明会	O号館202教室
7月28日	航空自衛隊音楽隊採用説明会	WEB配信
8月8日	教員採用試験2次試験対策 [他 8/11、8/12、8/17、8/21] 模擬授業、リコーダー、ピアノ弾き歌い	8/8対面実施(他 Zoom)
8月26日	ユーエスジェイ エンターテイナー採用説明会	K号館606教室
9月15日	短大1年生対象 卒業後のための進路ガイダンス	WEB配信(～10/15)
9月15日	保育士資格試験対策講座ガイダンス	B号館205教室
9月15日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義(Zoom)	B号館103教室(LIVE配信)
9月17日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級トライアル講座	B号館205教室
9月24日	カワイピアノグレード6級 学内認定特別講習	F号館313教室

▼2020年度 法人の動き

日付	内容	場所等
9月28日	教授会⑤	会議室
9月29日	保育士資格対策講座 [他 10/6、13、20、27、11/10、17、24、12/1、8、15、22、1/19、26、2/15*、22*、] (計16回)	B号館205教室
9月29日	英会話講座 [他 10/6、13、20、27、11/10、17、24、12/1、8] (計10回)	LIVE配信
9月29日	MIRAIカフェ④→② 教員編 「星槎国際高校 教諭 宮本優月 さん(大学ピアノ卒)を迎えて」	LIVE配信
10月1日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級取得準備講座 [他 10/8、22、29、11/5、12、19、26(10/1振替)] (計7回)	B号館205教室
10月5日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑤「自己分析・自己PR作成」 (マイナビ主催)	B号館102教室
10月12日	キャリア支援(進路・就職)に関する保護者対象説明会(全学生保護者対象)	WEB配信(～10/31)
10月14日	音楽教室起業セミナー	B号館102教室
10月19日	第65回ミレニウム・スチューデント・コンサート第1夜 (他第65回第2夜10/21、第66回第1夜11/16、第2夜11/19)	ミレニウムホール
10月20日	ヤマハ大人の音楽レッスン講師採用説明会<<2021年度春募集>>	キャリア支援センター
10月23日	第40回(春期)インターンシップ説明会	B号館401教室
10月26日	教授会⑥	会議室
10月28日	ヤマハ大人の音楽レッスン インストラクターズ・セミナー (※コラボレート・スタディ内 他専攻生聴講可)	K号館507教室
10月30日	甲斐環氏ピアノ特別講義	F号館215教室
10月31日	キャリア支援(進路・就職)に関する保護者対象 懇談会	LIVE配信
11月2日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑥「業界研究&志望動機」 (あさがく主催)	キャリア支援センター
11月9日	MIRAIカフェ⑤→③企業編「ビクター・エンターテイメント 岡崎彩希さん(大学Eo卒)を迎えて」	キャリア支援センター
11月10日	音楽教室講師採用説明会【三木楽器音楽教室編】	A号館303教室
11月12日	豊中市/高槻市教育委員会による合同講師登録説明会	キャリア支援センター
11月12日	第32回ザ・コンチェルト・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月13日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部2019年度卒業演奏会第1日 (他第2日11/14、第3日11/15)	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月17日	アンドレイ=ガヴリーロフ氏 ピアノ特別講義(他11/18)	F号館510教室他
11月18日	AILI氏 ポピュラー特別講義	K号館507教室
11月20日	求人紹介セミナー(新卒エージェントdoda主催)	LIVE配信
11月20日	第43回邦楽演奏会	ミレニウムホール
11月21日	教授会⑧	会議室
11月24日	大阪音楽大学大学院定期演奏会2020	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月30日	教授会⑦	会議室
12月1日	教員採用試験説明会【豊能地区】	キャリア支援センター
12月4日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑦「自己PR動画選考対策」 (あさがく主催)	B号館101教室
12月9日	土岐英史客員教授・片倉真由子氏 ジャズ特別講義	K号館404教室
12月10日	STUDY!「聞かせて！先輩」[他、12/14]	LIVE配信
12月11日	大阪音楽大学 第63回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
12月16日	鈴木央紹特任准教授 ジャズ特別講義	K号館404教室
12月17日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑧「面接講座(グループディスカッション)」(マイナビ主催)	B号館102教室
12月18日	教員採用試験説明会【大阪府】	キャリア支援センター
12月18日	教員採用試験説明会【堺市】	キャリア支援センター
12月22日	MIRAIカフェ⑥ 音楽療法士編「濱ちひろ さん(短専Eo卒)を迎えて」	LIVE配信
12月23日	村上健氏 ジャケットデザイン特別講義(ミュージッククリエイション)	A号館301教室
1月9日	ピエール・モンティ氏 作曲特別講義	P号館107教室

▼2020年度 法人の動き

日付	内容	場所等
1月12日	ビエール・モンティ氏 作曲特別講義	P号館107教室
1月14日	ヤマハ音楽教育システム 講師採用説明会《2022年度募集》	WEB限定配信(要エントリー)
1月15日	甲斐環氏 ピアノ特別講義	F号館215教室
1月24日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 第29回電子オルガン&作曲デザイン・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
1月25日	教授会⑨	会議室
1月27日	大阪音楽大学短期大学部ポピュラー・コース・コンサート	サンケイホールブリーゼ
2月9日	就活メイク講座	LIVE配信
2月9日	証明写真撮影会	ばうぜ特別室
2月10日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑨「就活直前セミナー」初級編/上級編(リクナビ主催)	B号館102教室
2月10日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジャズ・コンサート	常翔ホール
2月12日	And Vision主催 音楽留学セミナー	B号館101教室
2月19日	第32回大阪音楽大学学生オペラ「秘密の結婚」第1日(他第2日2/21)	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月22日	教授会⑩	会議室
2月24日	SPI対策WEB講座 ガイダンス	A号館414教室
2月24日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑩「模擬集団面接」(あさがく主催)	B号館102教室
2月24日	教職STUDY! 「みんなで話そう! 生徒指導について」	LIVE配信
2月25日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑪「模擬グループディスカッション」(あさがく主催)	B号館102教室
3月1日	教員採用試験 筆記試験対策 教職教養対策講座 [他 3/2、3、8] (4日間、計10回)	B号館102教室
3月1日	第18回ザ・ストリング・コンサート	常翔ホール
3月4日	河合楽器製作所 社員(総合職)採用説明会	LIVE配信
3月6日	大阪音楽大学 第52回吹奏楽演奏会	ザ・シンフォニーホール
3月11日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義(Zoom)	B号館102教室(LIVE配信)
3月12日	大阪音楽大学短期大学部ミュージカル・コース DAIONミュージカル第10回公演①(他②③3/13、④3/14)	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月15日	教員採用試験 実技試験対策講座 [ピアノ弾き歌い]	F号館215教室
3月15日	大阪音楽大学短期大学部2020年度卒業演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月16日	大阪音楽大学2020年度卒業演奏会第1日 (他第2日3/17)	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月18日	春休み企画「非常勤講師の魅力」 卒業生(勝部さん、宮坂さん、松尾さん)を迎えて	LIVE配信
3月21日	2020年度大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジュニア吹奏楽団演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月22日	教授会⑪	会議室
3月23日	大阪音楽大学管弦楽団 スプリング・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月24日	教職STUDY! 「教採の邦楽についてみんなで学ぼう」	F号館110教室
3月25日	短大卒業式・大学卒業式	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月30日	音楽院進学コース 前期実技試験&修了コンサート	ミレニアムホール
4月5日	《中止》吹奏楽フェスティバル	-
4月29日	《中止》オープンキャンパス(ミュージッククリエーション専攻のみオンラインで実施)	-
5月31日	《中止》春の音楽無料体験 (4/11から延期)	-
6月7日	トライアルレッスン(オンライン)	第1キャンパス他
7月19日	オープンキャンパス	第1キャンパス他
7月25日	YouTubeライブ配信コンサート ※こどものためのファミリーコンサート名称変更(4/11、5/31から延期)	ミレニアムホール
7月26日	トライアルレッスン&個別進学相談会	第1キャンパス他

▼2020年度 法人の動き

日付	内容	場所等
8月1日	夏期講習会	第1キャンパス他
8月4日	音楽基礎科目認定テスト	第1キャンパス他
8月6日	《中止》教員免許状更新講習(雅楽・指揮法・合唱・リコーダー・打楽器・日本伝統音楽・合唱)[他8/7、11、12、17、18、19、20]	-
8月30日	音楽院進学コース 前期実技試験	第2キャンパス
9月5日	常翔学園・大阪音楽大学 連携協定記念プロジェクト 「常翔ロビー・コンサート」(他、10/10、11/21、2/13、2/20、2/27)	常翔ホール
9月6日	進学実技適性テスト	第1キャンパス他
9月8日	《中止》オペラ物知り講座	-
9月16日	学3編入推薦・短専特別入学者選抜	第1キャンパス他
9月19日	大阪成蹊学園・大阪音楽大学 連携協定事業(他、10/31)	大阪成蹊大学・ 大阪成蹊女子高等学校
9月28日	大学院入学者選抜前期日程	第1キャンパス
10月7日	豊中市「サウンドスクール事業」豊中市立上新田小学校 (他、10月～3月まで、こども園13件、小学校18件、中学校3件)	豊中市内こども園、 小学校・中学校
10月11日	オープンキャンパス	第1キャンパス他
10月24日	大学・短大 総合型選抜(～10/25)	第1キャンパス他
11月17日	大阪音楽大学開放講座「音楽・心の旅」(他、11/29)	豊中市立中央公民館
11月22日	大学・短大 学校推薦型選抜(～11/23)	第1キャンパス他
11月30日	一般社会人のためのオペラ講座(他12月7日、12月14日、12月21日、1月18日)	ザ・カレッジ・オペラハウス他
12月4日	けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝箱」 (他、12/11、12/18、12/25)	高槻市立生涯学習センター
12月6日	木田雅子 ヴァイオリンリサイタル YouTubeライブ配信コンサート(4/26から延期)	音楽院さくら夙川校サロン
12月6日	管楽器アンサンブルクリニック/トライアルレッスン&個別進学相談会	第2キャンパス他
12月19日	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第58回定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
12月20日	音楽院からのクリスマスプレゼント YouTubeライブ配信コンサート	音楽院さくら夙川校サロン(LIVE配信)
12月23日	冬期講習会(～12/25)	第1キャンパス他
12月26日	音楽基礎科目認定テスト	第1キャンパス他
1月10日	《中止》ピアノの実力診断	-
1月26日	オペラ物知り講座	ミレニアムホール
2月5日	大学・短大 一般選抜(～2/8)	第1キャンパス他
2月13日	音楽院 器楽合同発表会(他2/14、2/27)	ミレニアムホール
2月17日	学3編入一般・短専・大専入学者選抜	第1キャンパス他
2月21日	音楽院 ピアノアンサンブルコンサート	ミレニアムホール
2月28日	音楽院 声楽合同発表会(他3/21、3/27・28)	ミレニアムホール
3月5日	大学院入学者選抜後期日程(～3/6)	第1キャンパス他
3月7日	音楽院 オルガンコンサート	K号館301教室
3月13日	音楽院 ミュージックカーニバル(他3/14、3/20)	ミレニアムホール
3月18日	大学・短大 後期総合型選抜	第1キャンパス他
3月20日	音楽基礎科目認定テスト	第1キャンパス他
3月21日	トライアルレッスン&個別進学相談会	第1キャンパス他
3月28日	石橋栄実×岡原慎也 ライブ配信同時コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス